

キリスト教学Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
天地創造の音楽		飯 靖子 (いい せいこ)	
ねらい	旧約聖書のはじめの天地創造の物語からどのような音楽が生み出されたかを知り、イメージを発展させ、わたし達の天地創造物語の音楽を作る。		
授業計画	【前期】 第1回 旧約聖書 創世記を読む 第2回 天地創造の物語 1 世の初めの様子を知る 第3回 天地創造の物語 2 世の初めのイメージを表現する。 第4回 天地創造物語の映像を観る 1 第5回 天地創造物語の映像を観る 2 第6回 ハイドン作曲「天地創造」を聞く 1 第7回 ハイドン作曲「天地創造」を聞く 2 第8回 ハイドン作曲「天地創造」を聞く 3 第9回 3つの「天地創造」からのワークショップ 1 第10回 3つの「天地創造」からのワークショップ 2 第11回 3つの「天地創造」からのワークショップ 3 第12回 3つの「天地創造」からのワークショップ 4 第13回 3つの「天地創造」から野ワークショップ 5 第14回 作品の発表 第15回 作品の発表		
進め方	音楽を聴いたり、映像を観ながら聖書の天地創造の物語のイメージを膨らませ、自分達の作品を作っていく。		
テキスト	『聖書』 『讃美歌21』	参考文献	必要に応じて配布。
評価方法	レポート:40% 出席:30% 授業参加の状態:30%		

キリスト教学Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
「イエスの生涯」の讃美歌と音楽		飯 靖子 (いい せいこ)	
ねらい	新約聖書の4つの福音書を通して、イエスがどんな生涯を送ったかを知り、それにまつわる音楽や讃美歌にふれる。		
授業計画	【後期】 第1回 イエスについて 第2回 イエスの誕生 1 第3回 イエスの誕生 2 第4回 イエスの誕生 3 第5回 イエスの誕生 4 第6回 「イエスの生涯」の映像 1 第7回 「イエスの生涯」の映像 2 第8回 イエスの生涯の音楽 1 第9回 イエスの生涯の音楽 2 第10回 イエスの死 1 第11回 イエスの死 2 第12回 イエスの死 3 第13回 イエスの復活 第14回 発表 第15回 発表		
進め方	映像を観、音楽を聴き、讃美歌をうたいながらイエスの生涯を知る。		
テキスト	聖書 讃美歌 2 1	参考文献	必要に応じて配布。
評価方法	レポート:40% 出席:40% 提出物など平常点:20%		

哲学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
自然・人間・世界		橋本 典子（はしもと のりこ）	
ねらい	哲学はミレトスの自然哲学者タレースが万物の源（アルケー）を水としたことから始まる。ソクラテースは魂の世話、プラトーンは〈よく生きること〉を提示した。西洋の古代及び中世の自然観・人間観・世界観を中心に、まず、哲学の基礎を学び、人間の知恵を確認し、哲学的に考えることを学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 序論、哲学の基礎的知識 第2回 ソクラテース以前の哲学、東の哲学と西の哲学 第3回 哲学の始まり、アルケーの追究、タレース 第4回 パルメニデースとエムペドクレース 第5回 人間について考える、ソクラテース 第6回 プラトーン、初期対話篇について 第7回 プラトーン、イデア論 第8回 プラトーン、国家篇 ポリスについて 第9回 アリストテレス、学問体系と形而上学 第10回 アリストテレス、倫理学とポリスの学（政治学） 第11回 実践哲学、混乱の時代の哲学 第12回 宗教と哲学、ユダヤ思想とキリスト教 第13回 教父哲学、ニュッサのグレゴリウスとアウグスティヌス 第14回 大学の始まり、アベラール 第15回 トマス『神学大全』、超越について		
進め方	講義形式で行う。		
テキスト	今道友信著『西洋哲学史』（講談社学術文庫）	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	出席及び普段の受講態度：35% 試験：55% レポート：10%		

哲学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
世界観の変遷		橋本 典子（はしもと のりこ）	
ねらい	近世、近代、現代の世界観の変遷を人間を中心に理解し、それぞれの時代の知的文化を形成し支えてきた基本的考えを適確に捉えることを目的とする。近世、近代を中心に講義する。		
授業計画	【後期】 第1回 中世哲学からルネサンスへ、近世・近代の始まり 第2回 Humanismの考えと思想、ビコー人間の尊厳について 第3回 エラスムスとモアア、理想と現実 第4回 自我の発見、デカルト『方法序説』 第5回 デカルト、神の存在証明、心身二元論 第6回 心身二元論の克服、ホッブスの国家論 第7回 考える葦、パスカルの人間論 第8回 ライブニッツ、二つの真理と汎神論 第9回 経験の重要視、イギリス経験論、ロック、パークリ 第10回 カント、理論と実践の関係 第11回 超越の問題、カントの立場そして永遠平和の考え 第12回 ドイツロマン主義、芸術と観念論の問題 第13回 シェリング、同一性の哲学 第14回 ヘーゲル、弁証法、歴史学の始まり 第15回 ニーチェ、キルケゴール、現代哲学のはじまり		
進め方	講義形式で行う。		
テキスト	今道友信著『西洋哲学史』（講談社学術文庫）	参考文献	授業中に推薦する。
評価方法	出席及び受講態度：35% 試験：55% レポート：10%		

倫理学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
医療の問題を中心に応用倫理学について考える。		福田 敦史（ふくだ あつし）	
ねらい	現在、応用倫理学と呼ばれる領域でどのような問題が取り上げられ、そして、どのような考え方が提出されているのかを学んでもらいます。そして、こうした問題に関して、みなさんに実際にいろいろと考えてもらおうと思います。倫理学Ⅰでは、医療の問題を中心にしたものを取り上げる予定です。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODククシヨク 第2回 倫理について考えること 第3回 インフオームドクンセクツとパターナリズム：その1 第4回 インフオームドクンセクツとパターナリズム：その2 第5回 インフオームドクンセクツとパターナリズム：その3 第6回 インフオームドクンセクツとパターナリズム：その4 第7回 脳死と臓器移植：その1 第8回 脳死と臓器移植：その2 第9回 脳死と臓器移植：その3 第10回 脳死と臓器移植：その4 第11回 クローン技術と優性思想：その1 第12回 クローン技術と優性思想：その2 第13回 クローン技術と優性思想：その3 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	講義を中心に進める予定ですが、一方的なものではなく、できるだけ双方向的なものにしたいと考えています。講義時間の後半20分前後を、その日の講義内容について簡単なペーパーを皆さんに書いてもらう時間にあて、書いてもらった事を紹介したり、検討したり、回答したりする時間を設ける予定です。もちろん授業中の質問や意見も大歓迎です。		
テキスト	特に指定しません。代わりにハンドアウトを配布することがあります。	参考文献	徳永哲也『はじめて学ぶ生命・環境倫理』ナカニシヤ出版、2003年。 この他にも授業中にできるだけ文献を紹介いたします。
評価方法	学期末試験：40% 出席：20% リアクションペーパー：40%		

倫理学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
生命の問題を中心に応用倫理学の問題について考える。		福田 敦史（ふくだ あつし）	
ねらい	現在、応用倫理学と呼ばれる領域でどのような問題が取り上げられ、そして、どのような考え方が提出されているのかを学んでもらいます。そして、こうした問題に関して、みなさんに実際にいろいろと考えてもらおうと思います。倫理学Ⅱでは、生命の問題を中心にしたものを取り上げる予定です。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODククシヨク 第2回 倫理について考えること 第3回 安楽死と尊厳死：その1 第4回 安楽死と尊厳死：その2 第5回 安楽死と尊厳死：その3 第6回 安楽死と尊厳死：その4 第7回 安楽死と尊厳死：その5 第8回 ターミナル・ケア：その1 第9回 ターミナル・ケア：その2 第10回 人工妊娠中絶：その1 第11回 人工妊娠中絶：その2 第12回 人工妊娠中絶：その3 第13回 人工妊娠中絶：その4 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	講義を中心に進める予定ですが、一方的なものではなく、できるだけ双方向的なものにしたいと考えています。講義時間の後半20分前後を、その日の講義内容について簡単なペーパーを皆さんに書いてもらう時間にあて、書いてもらった事を紹介したり、検討したり、回答したりする時間を設ける予定です。もちろん授業中の質問や意見も大歓迎です。		
テキスト	特に指定しません。代わりにハンドアウトを配布することがあります。	参考文献	徳永哲也『はじめて学ぶ生命・環境倫理』ナカニシヤ出版、2003年。 この他にも授業中にできるだけ文献を紹介いたします。
評価方法	学期末試験：40% 出席：20% リアクションペーパー：40%		

日本文学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
近代・現代の詩歌 1		小島 ゆかり (こじま ゆかり)	
ねらい	近代・現代の詩歌を通して、日本語の豊かさを発見する。心の表現としての詩歌の、時代性と普遍性を探る。鑑賞の 喜び・創作の喜びにふれる手がかりをつかむ。		
授業計画	【前期】 第1回 詩歌の言葉 第2回 鑑賞と創作 第3回 鑑賞と創作 第4回 鑑賞と創作 第5回 鑑賞と創作 第6回 鑑賞と創作 第7回 鑑賞と創作 第8回 鑑賞と創作 第9回 鑑賞と創作 第10回 鑑賞と創作 第11回 鑑賞と創作 第12回 鑑賞と創作 第13回 鑑賞と創作 第14回 鑑賞と創作 第15回 まとめ		
進め方	鑑賞や考察の手がかりとなる講義を中心とする。		
テキスト	特に定めず、配布資料による。	参考文献	平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）、高野公彦編『現代の短歌』（講談社学術文庫）、大岡信編『集成・昭和の詩』（小学館）など。その他適
評価方法	出席状況と授業態度:50% 課題:50%		

日本文学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
近代・現代の詩歌 2		小島 ゆかり (こじま ゆかり)	
ねらい	近代・現代の詩歌に展開されてきた思想や情感を探る。文学のジャンルとしての詩歌の本質と魅力を発見する。想像力 と創造力を養う。		
授業計画	【後期】 第1回 イメージについて 第2回 鑑賞と創作 第3回 鑑賞と創作 第4回 鑑賞と創作 第5回 鑑賞と創作 第6回 鑑賞と創作 第7回 鑑賞と創作 第8回 鑑賞と創作 第9回 鑑賞と創作 第10回 鑑賞と創作 第11回 鑑賞と創作 第12回 鑑賞と創作 第13回 鑑賞と創作 第14回 鑑賞と創作 第15回 まとめ		
進め方	鑑賞や考察の手がかりとなる講義を中心とする。創作の場をもつ。		
テキスト	特に定めず、配布資料による。	参考文献	『研究資料現代日本文学』（明治書院）など。その他適宜紹介する。
評価方法	出席状況と授業態度:50% 課題:50%		

日本文学Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
鬼束ちひろ学入門・「鬼束ちひろ」とは誰か 中也・賢治への視 思 《詞人論》入門ー現代詩人として読み、解 析するミュージシャンの世界ー		岡崎 和夫（おかざき かずお）	
ねらい	現代を代表するミュージシャンについて、その作品から音を切り離して成り立つ《詞》の世界を現代詩ととらえ、その中の真を、たくさんの謎を調査しながら文学研究のレベルで分析探求すること。時間割の都合や、この曜日の中では、面白そうだからといった狭量の幼い期待、また自己中心的思惟によって選択する科目ではありません。発表も発言力も		
授業計画	【前期】 第1回 導入・ミュージシャンを科学的、論理的に分析すること 第2回 導入・ミュージシャンを科学的、論理的に分析すること 第3回 鬼束ちひろを読む（基礎篇） 第4回 鬼束ちひろを読む（基礎篇） 第5回 鬼束ちひろを読む（基礎篇） 第6回 鬼束ちひろを読む（基礎篇） 第7回 鬼束ちひろを読む（基礎篇） 第8回 鬼束ちひろを読む（基礎篇） 第9回 鬼束ちひろを読む（基礎篇） 第10回 鬼束ちひろを読む（展開篇） 第11回 鬼束ちひろを読む（展開篇） 第12回 鬼束ちひろを読む（展開篇） 第13回 鬼束ちひろを読む（展開篇） 第14回 鬼束ちひろを読む（展開篇） 第15回 鬼束ちひろを読む（展開篇）		
進め方	鬼束ちひろという傑出したミュージシャンの文学性と《詞》の謎に迫る科学的方法を探しながら、参加学生の分担による研究発表、それを受けての思考の表明を基に進める。そののち、どんな小さな点でも、気付いたこと、考えたことを発表し合うコミュニケーションの時間を大切に、科学的研究としてのレベルを上げて行く。第1回、特に、欠席不可。		
テキスト	開講第2回までに、参加学生の学力に合わせて、 〈詩人論〉1点を決定する。	参考文献	適宜、指示する。
評価方法	発表、調査力:40% 論理的な思考、発言力:30% 左記以外の授業貢献力:30%		

英米文学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
US少数派（マイノリティ）文学に見る、有色女性たちの〈自分探し〉		齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）	
ねらい	外国文学は自分を知るための〈鏡〉である。あたりまえだった自己や世界のイメージが異化され、外からの眼差しによって根底から揺るがされる。現代アメリカの少数派女性文学2点をじっくり読みながら、women of colorという鏡に映し出された女性たちの生き様が私たちに何を問いかけるか、考えたい。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロ〜歴史という表象の政治学〜作品背景 第2回 『ジョイ・ラック・クラブ』精読 第3回 『ジョイ・ラック・クラブ』精読 第4回 『ジョイ・ラック・クラブ』精読 第5回 『ジョイ・ラック・クラブ』精読 第6回 『ジョイ・ラック・クラブ』精読 第7回 『ジョイ・ラック・クラブ』まとめ〜中間レポート説明 第8回 中間レポート締め切り〜『サンアントニオの青い月』概説 第9回 『サンアントニオの青い月』精読 第10回 『サンアントニオの青い月』精読 第11回 『サンアントニオの青い月』精読 第12回 『サンアントニオの青い月』精読 第13回 『サンアントニオの青い月』精読 第14回 『サンアントニオの青い月』まとめ〜期末レポート説明 第15回 期末レポート締め切り〜まとめ		
進め方	講義とディスカッションと AV 資料		
テキスト	エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』角川文 庫、S・シスネロス『サンアントニオの青い月』晶文 社、他にプリントを準備する。	参考文献	随時紹介
評価方法	レポート2本:60% 出席・議論への参加度:30% メールレポート:10%		

英米文学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
US少数派（マイノリティ）文学に見る、有色女性たちの〈自分探し〉		齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）	
ねらい	外国文学は自分を知るための〈鏡〉である。あたりまえだった自己や世界のイメージが、外からの眼差しによって異化され、根底から揺るがされる。現代アメリカの少数派女性文学2点をじっくり読みながら、women of colorという鏡に映し出された女性たちの生き様が私たちに何を問いかけるか、考えたい。		
授業計画	【後期】 第1回 イントロ～歴史という表象の政治学へ作品背景 第2回 『青い目がほしい』精読 第3回 『青い目がほしい』精読 第4回 『青い目がほしい』精読 第5回 『青い目がほしい』精読 第6回 『青い目がほしい』精読 第7回 『青い目がほしい』まとめ～中間レポート説明 第8回 中間レポート締め切り～『カラーパープル』概説 第9回 『カラーパープル』精読 第10回 『カラーパープル』精読 第11回 『カラーパープル』精読 第12回 『カラーパープル』精読 第13回 『カラーパープル』精読 第14回 『カラーパープル』まとめ～期末レポート説明 第15回 期末レポート締め切り～まとめ		
進め方	講義とディスカッション、余裕があればAV 資料を少し用いるかもしれない。		
テキスト	T・モリスン『青い目がほしい』ハヤカワepi文庫、 A・ウォーカー『カラー・パープル』集英社文庫、他 にプリントを準備する。	参考文献	随時紹介
評価方法	レポート2本:60% 出席・議論への参加度:30% メールレポート:10%		

アメリカ史Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
人種とジェンダーをめぐるアメリカ史		石井 朋子（いしい ともこ）	
ねらい	昨年、民主党の大統領候補指名争いでバラク・オバマとヒラリー・クリントンがし烈な戦いを繰り広げたのは記憶に新しいところです。実は、人種とジェンダーの問題はこれまでもアメリカの歴史の様々な場面で、複雑に絡み合ってきました。この講座ではアメリカの2大マイノリティーである黒人と女性の歴史とその関係について学んでいきます。		
授業計画	【前期】 第1回 はじめに 第2回 植民地時代から建国期にかけての女性たち 第3回 アメリカ社会と奴隷制度 第4回 女性たちによる社会改良運動 第5回 奴隷制反対運動の高まり 第6回 奴隷制反対運動と女性 第7回 奴隷制反対運動から女性権利運動へ 第8回 憲法修正14条をめぐる——女性参政権運動の分裂 第9回 新たな差別の形——南部における人種隔離制度 第10回 公民権運動 第11回 若者たちの反乱 第12回 第2波フェミニズム 第13回 オバマvs.クリントンの戦いを振り返る 第14回 黒人女性という立場 第15回 定期試験		
進め方	基本的に講義中心となるが、理解を助けるため配布プリントを使用する。		
テキスト	特に定めない。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席:15% 課題提出:15% 定期試験:70%		

アメリカ史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
アメリカ出産史		石井 朋子 (いしい ともこ)	
ねらい	2つある。(1)出産の歴史を学ぶことによって、現在の出産様式を相対化し、女性にとって望ましい出産とは何かを考えるヒントにする。(2)出産というテーマを切り口にしてアメリカ社会への理解を深める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 はじめに——出産史とは何か 第2回 植民地時代＝伝統的な出産の時代 第3回 産婆という女性(1) (ビデオ) 第4回 産婆という女性(2) 第5回 ヨーロッパにおける男性による助産の始まり 第6回 アメリカにおける男性による助産の始まり 第7回 ヴィクトリア朝時代と出産——女性の“慎み深さ”をめぐる 第8回 19世紀アメリカ女性の様々な出産体験 第9回 アメリカにおける医療の展開と産婆たち 第10回 医学の専門化と産婆論争 第11回 日本における助産の歴史と男性助産師問題 第12回 “文明”とアメリカの出産——男性医師の言説 第13回 分娩体位の歴史 第14回 陣痛と麻酔分娩——自宅出産から病院出産へ 第15回 定期試験		
進め方	基本的には講義中心となるが、理解を助けるため配布プリントやビデオを使用する。		
テキスト	特に定めない。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席:15% 課題提出:15% 定期試験:70%		

日本史Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
女性の生き方からたどる日本近代史		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
ねらい	恋愛・結婚・出産・育児・労働など、女性のライフサイクルには様々な選択肢がある。現代女性の自由で多様な生き方は、多くの制限の中を生きていた過去の女性達の願望や行動によって獲得したものである。近代以降激変していく女性をめぐる社会状況の変遷を中心に、日本近代史への理解を深める。欧米やアジアの女性史との比較などもしていき		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 序論 第2回 明治国家と「家」制度 第3回 自由民権運動と女性 第4回 「良妻賢母」主義教育 第5回 農村の女性 第6回 女工の労働環境 第7回 日清・日露戦争：出征・戦死・遺家族 第8回 婦人運動の展開 第9回 女性解放思想：母性保護論争を中心に 第10回 サラリーマン家庭の出現 第11回 植民地の生活 第12回 総力戦と女性①：「軍国の母」 第13回 総力戦と女性②：従軍慰安婦 第14回 敗戦と民主化 第15回 試験		
進め方	近代以降の日本の動向を、女性をめぐる状況の変化を中心に追っていく。様々な文献や資料、視聴覚教材を通して、近代日本史を生きた女性の歴史として再認識し、現代にまで通じる諸問題を検討してもらいたい。毎回出席をとり、随時授業の感想や意見等を書いてもらい参加意欲や理解度をみる。後半にはレポートを提出してもらおう。		
テキスト	毎回資料プリントを配布する	参考文献	脇田晴子他編『日本女性史』(吉川弘文館、1987年) 歴史教育者協議会編『学びあう女と男の日本史』(青木書店、2001) 他、講義時に随時紹介す
評価方法	平常点:30% レポート:30% 試験:40%		

日本史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
子どもたちの「近代」		小林 瑞乃（こばやし みずの）	
ねらい	子どもをめぐる状況は、明治期以降激変した。近代日本は国民国家が形成され、世界秩序は変転し、戦争が繰り返された時代であった。その歴史的経過を子どもをめぐる状況の変化として捉え直し、国家と国民、日本とアジアの問題を中心に様々な観点から多面的に検証し、現代社会の今日的課題への考察力を鍛えたい。		
授業計画	【後期】 第1回 序論 第2回 「国民」をつくる 第3回 学校教育の開始 第4回 歌声を変えた唱歌 第5回 日本とアジア：日清・日露戦争 第6回 学校と試験 第7回 「家」制度と女性 第8回 核家族の出現 第9回 自由主義教育の展開 第10回 軍部の台頭と教育の軍国主義化 第11回 「大東亜共栄圏」の宣伝と実態 第12回 戦時体制の中で① 第13回 戦時体制の中で② 第14回 敗戦後を生き抜く：引き揚げと孤児 第15回 試験		
進め方	前半は子どもをめぐる社会的変容、後半は戦時下の諸相を中心に、時代状況の変化を見ていく。教科書や絵図・写真・漫画など様々な資料から興味や関心を深め、なじみ深く身近な事柄から歴史の面白さを知る機会を設けたい。毎回出席をとり、随時感想や意見を書いてもらい参加意欲や理解度をみる。後半にレポート提出がある。		
テキスト	毎回資料プリントを配布する	参考文献	講義内容に即して随時紹介する。
評価方法	平常点:30% レポート:30% 試験:40%		

東洋史Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
世界遺産からみた中国の歴史と文化Ⅰ		高浜 侑子（たかはま ゆうこ）	
ねらい	近年、世界遺産について関心が高まっており、中国では37の世界遺産が登録されている。その中から文化遺産を通して、中国の歴史と文化を考察したい。東洋史Ⅰでは「中国古代の歴史と文化」、「中国古代～中世の宗教と文化」をテーマに解説する。		
授業計画	【前期】 第1回 中国の歴史・文化と世界遺産 第2回 先史時代の人類の歴史「周口店の北京原人遺跡」 第3回 古代王朝の始まり「殷墟」 第4回 古代の学術と文化「曲阜の孔廟、孔府、孔林」 第5回 古代帝国の出現「秦の始皇帝陵と兵馬俑坑」 第6回 長城の起源と歴史（古代）「万里の長城」（1） 第7回 長城と対外政策（中世～近世）「万里の長城」（2） 第8回 仏教の中国伝来と仏教芸術「敦煌の莫高窟」 第9回 仏教の中国流行と仏教芸術「雲岡石窟」「竜門石窟」 第10回 中国各地の仏教文化「廬山」 第11回 中国各地の仏教文化「大足石刻」「峨眉山と樂山大仏」 第12回 山岳信仰と宗教の聖地「泰山」 第13回 道教の発祥地と聖地「青城山と都江堰」「武当山」 第14回 名山と文化・芸術「黄山」「武夷山」 第15回 試験		
進め方	講義が中心となるが、DVD、ビデオやスライドを使用して理解を助ける。		
テキスト	特に定めず、プリントを配付する。	参考文献	山口直樹『中国世界遺産の旅』（小学館）。その他、図書館カウンターにある2009年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	出席:30% 小レポート:10% 定期試験:60%		

東洋史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
世界遺産からみた中国の歴史と文化Ⅱ		高浜 侑子（たかはま ゆうこ）	
ねらい	近年、世界遺産について関心が高まっており、中国では35の世界遺産が登録されている。その中から文化遺産を通して、中国の歴史と文化を考察したい。東洋史Ⅱでは「中国近世～現代の歴史と文化」、「多民族国家中国の歴史と文化」をテーマに解説する。		
授業計画	【後期】 第1回 中国の歴史・文化と世界遺産 第2回 明・清王朝の都の歴史「故宮」（1） 第3回 明・清王朝の都の歴史「故宮」（2） 第4回 明・清王朝の祭天儀礼「天壇」 第5回 明・清王朝の陵墓制度「明・清の皇家陵」 第6回 清王朝の離宮と寺廟群「承徳の避暑山荘と外八廟」 第7回 清王朝の庭園と対外問題「頤和園」 第8回 近世の商人の活躍「古都平遥」「安徽省の西遞村、宏村」 第9回 江南文化の繁栄と名園「蘇州の古典庭園」 第10回 西洋文化と中国文化の融合「マカオ歴史地区」 第11回 奇妙な建築群「開平のチョウ楼と村落」「福建土楼群」 第12回 高句麗王国の遺跡群「高句麗前期の都城と古墳」 第13回 チベット仏教の聖地「ラサのポタラ宮歴史地区」 第14回 中国西南のナン族の古都「古都麗江」 第15回 試験		
進め方	講義が中心となるが、DVD、ビデオやスライドを使用して理解を助ける。		
テキスト	特に定めず、プリントを配付する。	参考文献	山口直樹「中国世界遺産の旅」（小学館）。その他、図書館カウンターにある2009年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	出席:30% 小レポート:10% 定期試験:60%		

西洋史Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
西洋近現代史 一革命家列伝一		西願 広望（せいがん こうぼう）	
ねらい	革命家は古い時代を破壊し新しい世界史を切り拓こうとする。しかし革命家もまた歴史に囚われている。本講義は人生の模範とすべき「偉い人」の話ではない。ただ学生諸君が「MY REVOLUTION」を模索する際のヒントを提供できたら幸いである。大切なのは、世界観を変えることで、世界と自分との新しい関係をイメージし、それを物語ることではなからう		
授業計画	【前期】 第1回 ロベスピエール(1) 一超天才のあやまち？一 第2回 ロベスピエール(2) 第3回 ロベスピエール(3) 第4回 ロベスピエール(4) 第5回 ローザ・ルクセンブルク(1) 一血のローザと呼ばれて一 第6回 ローザ・ルクセンブルク(2) 第7回 ローザ・ルクセンブルク(3) 第8回 ローザ・ルクセンブルク(4) 第9回 ホー・チ・ミン(1) 一百の名前を持つ男一 第10回 ホー・チ・ミン(2) 第11回 ホー・チ・ミン(3) 第12回 ホー・チ・ミン(4) 第13回 半期の総復習と期末レポートの準備 第14回 期末レポートの提出と報告 第15回 予備日		
進め方	講義形式。更に、毎回、視聴覚資料（特に映画）を用いる。西洋の時事問題や日常生活なども、時間が許すかぎり紹介したい。高校の「世界史」の授業とは異なり、本講義において重要なのは、暗記よりも、分析と理解である。		
テキスト	特になし。	参考文献	授業中に適宜、紹介する。
評価方法	講義感想文(1):20% 講義感想文(2):20% 講義感想文(3):20% 期末レポート:40%		

西洋史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
フランスにおける宗教と政治の歴史		西願 広望 (せいがん こうぼう)	
ねらい	宗教と政治の「危険な関係」の歴史を学ぶ。 ヨーロッパ人はしばしば宗教をネタにして、かなりきわどいジョークを言うことができる。何故だろう?・・・そのようなことも本講義を通じて考えることができたら良いと思う。		
授業計画	【後期】 第1回 フランス革命の遺産 第2回 コンコルダ体制 第3回 国民教会の試み 第4回 復古王政と宗教 第5回 七月王政の宗教政策 第6回 第二共和政下でのカトリック 第7回 ナポレオン三世と宗教 第8回 イタリア戦争(1859)の波紋 第9回 第三共和政初期における宗教問題 第10回 世俗化政策 第11回 コンコルダ体制のおわり 第12回 第一次世界大戦と宗教 第13回 第二次世界大戦と宗教 第14回 戦後から68年まで 第15回 予備日		
進め方	講義形式。さらに、毎回、視聴覚資料(特に映画)を用いる。 西洋の時事問題や日常生活なども、時間が許すかぎり紹介したい。 頻繁に欠席すると、授業についていくのが大変になるので、注意すること。		
テキスト	特になし。	参考文献	授業中に適宜、紹介する。
評価方法	講義感想文(1):20% 講義感想文(2):20% 講義感想文(3):20% 期末レポート:40%		

芸術Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
西洋建築の歴史		伊藤 巳令 (いとう みれい)	
ねらい	建築は人が住むという点においては実用性が要求されますが、社会との関わりにおいては象徴的なものでもあり、また美的な要求も満たさなければなりません。もちろん建築工学の発達とも密接に関連しています。この授業では、時代や地域や用途によってさまざまな違いを見せるヨーロッパの建築を、初心者でもわかるように、ゆっくりと解説したいと思いま		
授業計画	【前期】 第1回 古代ギリシャの建築 第2回 古代ローマの建築 第3回 ビザンチン、初期キリスト教時代の建築 第4回 ロマネスク建築 第5回 ゴシック建築 第6回 ルネサンス建築1 第7回 ルネサンス建築2 第8回 マニエリスム建築 第9回 バロック建築1 第10回 バロック建築2 第11回 庭園 第12回 ロココ様式 第13回 新古典主義建築 第14回 近現代の建築1 第15回 近現代の建築2		
進め方	授業では、その様式の代表的な作例を中心に、写真や見取り図をプロジェクターで投影しながら解説します。		
テキスト	なし	参考文献	陣内秀信、他(著)『図説 西洋建築史』彰国社 佐藤達生(著)『図説 西洋建築の歴史』(ふくろうの本)河出書房新社 熊倉洋介、他(著)『西洋建築様式史』美術
評価方法	出席:50% 期末レポート:50%		

芸術Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
古典主義美術とバロック美術		伊藤 巳令 (いとう みれい)	
ねらい	美術様式としての古典主義とバロックは、ルネサンスから19世紀までのヨーロッパ美術のなかに存在する対立概念としてとらえられています。授業では、具体的な美術作品の分析を通じて古典主義とバロックの特質を見極めたいと思います。		
授業計画	【後期】 第1回 ルネサンスと古代美術 第2回 初期ルネサンスと古代復興 ① 第3回 ② 第4回 盛期ルネサンスと理想美 ラファエッロ 第5回 フランス古典主義と歴史画 ブッサン 第6回 理想的風景画 クロード・ロラン 第7回 新古典主義 第8回 初期バロック カラヴァッジョと自然主義① 第9回 ② 第10回 カラヴァジェスキと明暗法 第11回 バロックの彫刻 ベルニーニ 第12回 ルーベンス 第13回 ベラスケス 第14回 レンブラント 第15回 ②		
進め方	授業では、プロジェクターで投影された作品をじっくり鑑賞しながら、作品の見方、考え方を説明し、それぞれの様式の理解を深めたいと考えています。毎回たくさんの作品を扱いますので、美術鑑賞の好きな人は楽しみにしてください。		
テキスト	なし	参考文献	ガエルリソ『美術史の基礎概念』『ルネサンスとバロック』 小学館『世界美術大全集』ルネサンス1、ルネサンス2、バロック1、バロック2
評価方法	出席:50% 期末レポート:50%		

生活デザインⅠ		前期 2 単位	1・2・3年
ヨーロッパの服飾デザイン史		内村 理奈 (うちむら りな)	
ねらい	私たちにとって服飾は最も身近なデザインですが、それがどのような歴史の上に成立しているか考えることは少ないのではないのでしょうか。本講義では、ヨーロッパの歴史上に現れた服飾デザインを、その背景にある人間の思いと生活の営みに目を配りながら概説します。過去の服飾デザインの色や形の面白さを伝えたいと思います。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション：生活デザインとしての服飾 第2回 古代ギリシャ・ローマ：ドレーパリーのヴァリエーション 第3回 ビザンティン文明：ヨーロッパ儀礼服の源流 第4回 中世①：教会彫刻に見られる優美なファッション 第5回 中世②：毛皮の文化 第6回 中世③：紋章と色彩のシンボル 第7回 ルネサンス①：異国への憧れ、服飾版画の誕生 第8回 ルネサンス②：肖像画にみるスラッシュ装飾、レース、宝石 第9回 17世紀①：小物のファッション 第10回 17世紀②：ベルサイユに花開く宮廷衣裳と室内着 第11回 18世紀①：画家の描いたロココ・ファッション 第12回 18世紀②：巨大な髪型、マリー・アントワネットと自然への憧れ 第13回 19世紀：ダンディ、クリノリン、バスル、コルセット、スポーツウェアの誕生 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	毎回パワーポイントで多くの図像資料を紹介しながら講義を行います。紹介する図像資料はプリント（白黒）で配布します。		
テキスト	特になし。	参考文献	深井晃子監修『カラー版世界服飾史』美術出版社。 その他の参考文献は授業の中で適宜紹介する。
評価方法	出席:30% 試験:70%		

生活デザインⅡ		後期 2 単位	1・2・3年
日本の服飾デザインと現代ファッション		内村 理奈 (うちむら りな)	
ねらい	ファッションのグローバル化と言われる今日ですが、現代ファッションへの日本の服飾文化の影響は少なくありません。講義では、まず日本の服飾デザインの特色を概観し、その上で、服飾デザインが内包する人間生活の根幹と関わる問題群を、現代ファッションをリードしてきたデザイナーたちがどのように考えてデザインしてきたか考察し、今後のファッションの方向性を展望します。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨ、現代ファッションの方向性と課題 第2回 平安時代：十二単、重ね色目 第3回 室町から安土・桃山時代：小袖、能装束 第4回 江戸時代①：浮世絵、歌舞伎 第5回 江戸時代②：町人文化と袴 第6回 日本と西洋の文化交流：和装から洋装へ 第7回 現代ファッションとジェンダーの問題に関する映像資料鑑賞 第8回 コルセットからの解放と日本趣味（ジャポニスム）（ポワレ） 第9回 女性の自立とシャネル・スタイル（シャネル） 第10回 新しい男女観を求めて（ディオール、ゴルティエ） 第11回 アートとファッション（スキヤパレリ、イヴ・サンローラン） 第12回 服飾史へのまなざし（ヴィヴィアン・ウエストウッド） 第13回 日本の再発見、衣生活の問い直し（三宅一生ほか） 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	毎回パワーポイントで多くの図像・写真資料を紹介しながら講義を行います。ファッションに関する貴重な映像資料も紹介します。紹介する図像資料はプリント（白黒）で配布します。		
テキスト	特になし。	参考文献	授業の中で適宜紹介します。
評価方法	出席：30% 試験：70%		

対照言語学		後期 2 単位	1・2・3年
日本語と英語		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
ねらい	まず音声・文字・文法・発想法や語彙・意味などの観点からみた日本語と英語の違いについて実例を挙げながら具体的に観察し、その上で日本語と英語の言語的な特徴をよりよく、より深く理解することがこの授業の主な目的です。また、誤った「日本語特殊論」についても考えてみたいと思います。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 序論：世界の諸言語の中の日本語と英語 第3回 音声(母音)の日英語比較 第4回 音声(子音)の日英語比較 第5回 音節・アクセント・リズムの日英語比較 第6回 日本語と英語の文字体系 第7回 文法的類型からみた日本語と英語 第8回 名詞と動詞の日英語比較 第9回 代名詞の日英語比較 第10回 日本語の助詞と英語の冠詞、日本語の敬語 第11回 日本語と英語の発想法 第12回 語彙・意味の日英語比較 第13回 日本語と英語の造語法 第14回 まとめ 第15回 定期試験		
進め方	授業に必要な資料はプリントにして教室で配布し、講義形式で授業を進めることとなります。必要と思われることはしっかりとノートを取るようして下さい。		
テキスト	特には使用しません。	参考文献	第1回目の授業時にまとめて紹介します。
評価方法	出席：40% 定期試験：60%		

社会言語学		前期 2 単位	1・2・3年
世界の様々な英語		高野 嘉明（たかの よしあき）	
ねらい	英語は現在、国際語または世界語といわれ、英米ばかりでなく、オーストラリア、南アフリカ、インドなど、世界の多くの国で使用されています。この授業では、そのような様々な国の英語の特徴をわかりやすく説明し、実際の音声も聞いてもらう予定です。世界中には多様な英語がある、ということを実感してほしいと思います。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 英語の略歴 第3回 国際語としての英語 第4回 イギリス英語とアメリカ英語：発音 第5回 イギリス英語とアメリカ英語：文法 第6回 イギリス英語とアメリカ英語：綴り字 第7回 イギリス英語とアメリカ英語：語彙 第8回 アイルランドの英語 第9回 オーストラリアの英語 第10回 南アフリカの英語 第11回 インドの英語 第12回 イギリス英語とアメリカ英語の様々な方言 第13回 国際語としての英語の将来 第14回 まとめ 第15回 定期試験		
進め方	授業に必要な資料はプリントとして教室で配布し、講義形式で授業を進めることになります。必要と思われることはしっかりとノートを取るようして下さい。音声教材も活用します。		
テキスト	特には使用しません。	参考文献	第1回目の授業時にまとめて紹介します。
評価方法	出席：40% 定期試験：60%		

日本思想史 I		前期 2 単位	1・2・3年
近代日本の「国家／日本」像		佐藤 美奈子（さとう みなこ）	
ねらい	あなたが今、暮らしているのはどんな「国」ですか？この問いに、あなたはどうか答えてください。本授業では、明治期を生きた人々がこの問いにどう答えるか、彼らの思想を学びながら探ります。それはまた、彼らがどのような「国」を作ろうとしたのか、問いかけることにもなるでしょう。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 儒教的世界観の特徴：幕末における世界の見え方 第3回 新しい自分の形：福澤諭吉「天は人の上に人をつくらず」 第4回 新しい日本の形：福澤諭吉「一身独立して一国独立す」 第5回 自由民権運動の思想 第6回 自由民権運動の終焉と大日本帝国憲法の成立 第7回 特別企画：青山霊園散歩：歴史上の人物のお墓参り 第8回 ワークショップ：「国家」とは何か、「日本」とは何か 第9回 天皇制国家の「起源」 第10回 教育勅語の思想 第11回 家族国家論：穂積八束の思想 第12回 国体論との対立1：社会主義 第13回 国体論との対立2：内村鑑三 第14回 日本主義（国粹主義）の思想 第15回 まとめ：二つの政治共同体像		
進め方	講義形式。ただし各人の意見や考えを知るため、発言を求めます。また、毎回、授業の最後にミニレポートを書いて提出してもらいます。他の思想を学ぶだけでなく、自らの思想を発信することも求められる授業です。「分かりません」という答えは認めないので、そのつもりで参加してください。授業の妨げとなるため、途中入室（遅刻）も認めませ		
テキスト	特に定めません。	参考文献	授業時に随時紹介します。
評価方法	出席：45% 授業内レポート：45% ボーナス：10%		

日本思想史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
近代日本の「アジア」像		佐藤 美奈子（さとう みなこ）	
ねらい	明治以降の日本は、「アジア」の国々との緊張関係の中で形作られてきました。しかし、そんな「アジア」について、また「アジア」と日本の関係について、私達はどれほど知っているのでしょうか？本授業では、明治期に生きた人々が「アジア」や日本についてどのように考えていたかを学ぶことで、自分自身の「アジア」観や日本観も探りたいと思います		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 ワークショップ：「アジア」とは何か 第3回 近代日本と「アジア」の関係：歴史的背景1 第4回 「アジア」への視座：進化論の思想 第5回 「脱亜」の思想1：脱亜論 第6回 「脱亜」の思想2：加藤弘之 第7回 特別企画：渋谷で歴史を探そう！ 第8回 進化論的世界観への挑戦：社会主義 第9回 近代日本と「アジア」の関係：歴史的背景2 第10回 「興亜」の思想1：梅井藤吉 第11回 「興亜」の思想2：「清国ニ対スル宣戦ノ詔勅」 第12回 「興亜」の思想3：北一輝 第13回 「興亜」の思想4：岡倉天心 第14回 「アジア」からの批判的視座：竹内好 第15回 まとめ：「アジア」から考える日本		
進め方	講義形式。ただし各人の意見や考えを知るため、発言を求めます。また、毎回、授業の最後にミニレポートを書いて提出してもらいます。他の思想を学ぶだけでなく、自らの思想を発信することも求められる授業です。「分かりません」という答えは認めないので、そのつもりで参加してください。授業の妨げとなるため、途中入室（遅刻）も認めませ		
テキスト	特に定めません。	参考文献	授業時に随時紹介します。
評価方法	出席:45% 授業内レポート:45% ボーナス:10%		

書道Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
生活の中の書Ⅰ		田丸 憲子（たまる のりこ） 本庄 和子（ほんじょう かずこ）	
ねらい	用具の簡便さからそまつに書きがちなペン字を、手書きの果たす役割や味わいを大切に、正しい書き方を学び、安定感のある美しい文字が書けるようにする。		
授業計画	【前期】 第1回 漢字の基礎、葉書の書き方 第2回 ひらがなの練習 第3回 ひらがなの練習 第4回 漢字の練習 楷書、行書 第5回 漢字の練習 楷書、行書 第6回 漢字の練習 楷書、行書 第7回 縦書文の練習 第8回 縦書文の練習 第9回 縦書文の練習 第10回 横書文の練習 第11回 地名の練習 第12回 地名の練習 第13回 作品を書く練習 第14回 漢字仮名交じり文の練習 第15回 漢字仮名交じり文の練習		
進め方	ひらがなから始め、漢字の楷書、行書、漢字仮名まじり文を書く練習をする。正しい筆順、正しいくずし方を学ぶ。硬筆（ペン）でも美しい作品が書けることを知り、作品を書いてみる。毎時間実習を中心に進め、毎回清書を提出する。		
テキスト	資料を配布します。	参考文献	「ペン習字三体」 高田香雪著 日本習字普及協会、 「3級合格のポイント」 日本習字普及協会、 「筆順字体字典」 江守賢治著 三省堂
評価方法	提出物の平均点:80% 出席点:10% 授業時態度:10%		

書道 I		後期 2 単位	1・2・3年
生活の中の書 I		本庄 和子 (ほんじょう かずこ)	
ねらい	用具の簡便さからそまつに書きがちなペン字を、手書きの果たす役割や味わいを大切に、正しい書き方を学び、安定感のある美しい文字が書けるようにする。		
授業計画	【後期】 第1回 漢字の基礎、葉書の書き方 第2回 ひらがなの練習 第3回 ひらがなの練習 第4回 漢字の練習 楷書、行書 第5回 漢字の練習 楷書、行書 第6回 漢字の練習 楷書、行書 第7回 縦書文の練習 第8回 縦書文の練習 第9回 縦書文の練習 第10回 横書文の練習 第11回 地名の練習 第12回 地名の練習 第13回 作品を書く練習 第14回 漢字仮名交じり文の練習 第15回 漢字仮名交じり文の練習		
進め方	ひらがなから始め、漢字の楷書、行書、漢字仮名交じり文を書く練習をする。正しい筆順、正しいくずし方を学ぶ。硬筆（ペン）でも美しい作品が書けることを知り、色紙に書いてみる。毎時間実習を中心に進め、毎回清書を提出する。		
テキスト	資料を配布します。	参考文献	「ペン習字三体」 高田香雪著 日本習字普及協会、 「3級合格のポイント」 日本習字普及協会、 「筆順字体辞典」 江守賢治著 三省堂
評価方法	提出物の平均点:80% 出席点:10% 授業時態度:10%		

書道 II		後期 2 単位	1・2・3年
生活の中の書 II		田丸 憲子 (たまる のりこ) 本庄 和子 (ほんじょう かずこ)	
ねらい	普段持つことの少ない筆で書くことにより、集中力をつけ、手書きの果たす役割や味わいを大切に、正しい書き方を学び、安定感のある美しい文字が書けるようにする。		
授業計画	【後期】 第1回 漢字の基礎練習 第2回 楷書の練習 孔子廟堂碑 第3回 楷書の練習 孔子廟堂碑 第4回 楷書の練習 九成宮醴泉銘 第5回 楷書の練習 九成宮醴泉銘 第6回 楷書の練習 雁塔聖教序 第7回 楷書の練習 雁塔聖教序 第8回 行書の練習 集字聖教序 第9回 行書の練習 集字聖教序 第10回 行書の練習 蘭亭序 第11回 行書の練習 蘭亭序 第12回 行書、草書の練習 風信状 第13回 行書、草書の練習 風信状 第14回 ひらがなの練習 第15回 ひらがなの練習		
進め方	基本的な楷書から、行書、草書へと進み更にかの基本までをそれぞれ古典によって学ぶ。毎時間実習を中心にすすめる、毎回清書を提出する。		
テキスト	古典学習資料	参考文献	「書道検定の手引きと問題集」 日本書写技能検定協会、 「3級合格のポイント」 日本習字普及協会、 「筆順字体字典」 江守賢治著 三省堂、
評価方法	提出物の平均点:80% 出席点:10% 授業時態度:10%		

創作俳句Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
俳句に親しむ		片山 由美子 (かたやま ゆみこ)	
ねらい	俳句は多くの人々に愛好されている文芸です。それは、わずか十七音でさまざまなことを表現できる可能性を秘めているからです。その方法を学び、毎日の生活の中で感じたことを表現できるようにします。その中で自分自身を見つめ、創作の楽しさを知ることが目的です。季語を通して日本の文化や伝統に触れ、日本語の豊かさを味わってみましょう		
授業計画	【前期】 第1回 俳句とは何か 歳時記について 第2回 俳句の基礎知識 第3回 季語解説と実作指導 第4回 作品鑑賞と実作への応用 第5回 俳句の技法 実作指導 第6回 俳句の発想 実作指導 第7回 季語の知識を深める 第8回 句会の方法 実作指導 第9回 句会を体験する 第10回 名句に学ぶ 実作指導 第11回 句会 第12回 名句に学ぶ 実作指導 第13回 句会 第14回 句会 第15回 まとめ		
進め方	句会を楽しめるようになることを目標とします。毎回提出の作品(5句まで)の添削によって俳句の技法を学び、ビデオを使って季語の知識を深めます。句会の例をビデオで見て、実際に体験します。句会の回数など、進め方については人数や習熟状況によって変更になる場合があります。毎回の積み重ねですので、全回出席することが原則です。		
テキスト	特になし。	参考文献	歳時記(角川学芸出版「合本俳句歳時記」がのぞましい)。その他、随時紹介。
評価方法	出席:50% 提出作品の評価:40% 取り組みの意欲と態度:10%		

創作俳句Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
俳句に親しむ		片山 由美子 (かたやま ゆみこ)	
ねらい	俳句は多くの人々に愛好されている文芸です。それは、わずか十七音でさまざまなことを表現できる可能性を秘めているからです。その方法を学び、毎日の生活の中で感じたことを表現できるようにします。その中で自分自身を見つめ、創作の楽しさを知ることが目的です。季語を通して日本のすぐれた文化や伝統に触れ、日本語の豊かさを味わいま		
授業計画	【後期】 第1回 俳句の概説 歳時記について 第2回 俳句の基礎知識 第3回 季語解説と実作指導 第4回 季節に親しむ 実作指導 第5回 俳句の発想と技法 実作指導 第6回 俳句の発想と技法 実作指導 第7回 名句に学ぶ 実作指導 第8回 句会の方法 第9回 句会を体験する 第10回 名句に学ぶ 実作指導 第11回 季語の知識を深める 実作指導 第12回 句会 第13回 技法を深める 第14回 句会 第15回 まとめ		
進め方	句会を楽しめるようになることを目標とします。歳時記や句会のビデオを見て、多角的に俳句を学びます。毎回提出の作品(5句まで)の添削を通じて実作を指導します。句会の回数は人数や習熟状況によって変わることがあります。毎回の積み重ねが重要なので全回出席が原則です。前期からの継続も歓迎。		
テキスト		参考文献	歳時記(角川学芸出版「合本俳句歳時記」がのぞましい)。その他は随時紹介。
評価方法	出席:50% 提出作品の評価:40% 取り組みの意欲と態度:10%		

音楽Ⅰ		前期 2 単位	1・2年
音楽に親しむⅠ（音楽Ⅱに準ずる。音楽Ⅱからの継続可。）		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
ねらい	「芸術としての音楽の理解と考察」 発声の基礎を知り、歌曲、合唱曲、等を歌うことで、曲の美しさや、歌詞の理解と詩の美しさを感じとり、音楽に関するドキュメンタリーの鑑賞、音楽鑑賞、等を通して、聴き方、楽しみ方を知り、音楽への理解を深める。		
授業計画	【前期】 第1回 授業の進め方、発声の基礎 第2回 発声の基礎、歌 第3回 発声の基礎、歌 第4回 音楽鑑賞 第5回 音楽鑑賞 第6回 音楽鑑賞 第7回 歌詞の発音 第8回 海外の歌 第9回 弦楽器 第10回 演奏家の人生 第11回 音楽鑑賞 第12回 音楽鑑賞 第13回 楽器の歴史 第14回 音楽鑑賞 第15回 レポート試験		
進め方	合唱曲、歌曲は合唱で歌います。（歌唱曲の選曲は音楽Ⅱと重複も有） 音楽ドキュメンタリー鑑賞、音楽鑑賞は、提案して鑑賞をします。 授業内容は、状況に応じて、適宜調整する場合があります。		
テキスト	必要な場合は資料を配付します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

音楽Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
音楽に親しむⅡ（音楽Ⅰに準ずる。音楽Ⅰからの継続可。）		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
ねらい	「芸術としての音楽の理解と考察」 発声の基礎を知り、歌曲、合唱曲、等を歌うことで、曲の美しさや、歌詞の理解と詩の美しさを感じとり、音楽に関するドキュメンタリーの鑑賞、音楽鑑賞、等を通して、聴き方、楽しみ方を知り、音楽への理解を深める。		
授業計画	【後期】 第1回 授業の進め方、発声の基礎 第2回 発声の基礎、歌 第3回 発声の基礎、歌 第4回 音楽鑑賞 第5回 音楽鑑賞 第6回 歌詞の発音 第7回 海外の歌 第8回 音楽鑑賞 第9回 音楽鑑賞 第10回 日本の歌 第11回 音楽鑑賞 第12回 音楽鑑賞 第13回 クリスマスの音楽 第14回 音楽鑑賞 第15回 レポート試験		
進め方	合唱曲、歌曲は全員で歌います。（歌唱曲の選曲等は音楽Ⅰと重複も有） 音楽ドキュメンタリー鑑賞、音楽鑑賞は、提案して鑑賞をします。 授業内容は、状況に応じて適宜調整する場合があります。		
テキスト	必要な場合は資料を配付します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

国語表現法Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
「書くこと」「伝えること」のトレーニング		津島 知明（つしま ともあき）	
ねらい	私たちが毎日使っている日本語について、様々な角度から考えながら、各人が自分の「言葉」と向き合い「表現」を磨き上げてゆくための時間としたい。（国語表現法Ⅱに同じ）		
授業計画	【前期】 第1回 自己紹介文 第2回 テーマを選ぶ 第3回 推敲と再構成 第4回 タイトルと書き出し 第5回 他人の表現に学ぶ 第6回 四コマ作文 第7回 文章の縮約 第8回 添削とコメント 第9回 文章の縮約（2） 第10回 添削とコメント（2） 第11回 改まった手紙文 第12回 自己アピール、自己推薦文 第13回 敬語の使い方 第14回 誤りやすい漢字・熟語 第15回 まとめ		
進め方	毎回課題を提出してもらう。 国語辞典と原稿用紙（B5 400字）を持参すること。		
テキスト	プリントを使用。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	課題の提出:50% 出席:40% 特別課題:10%		

国語表現法Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
「書くこと」「伝えること」のトレーニング		津島 知明（つしま ともあき）	
ねらい	私たちが毎日使っている日本語について、様々な角度から考えながら、各人が自分の「言葉」と向き合い「表現」を磨き上げてゆくための時間としたい。（国語表現法Ⅰに同じ）		
授業計画	【後期】 第1回 自己紹介文 第2回 テーマを選ぶ 第3回 推敲と再構成 第4回 タイトルと書き出し 第5回 他人の表現に学ぶ 第6回 四コマ作文 第7回 文章の縮約 第8回 添削とコメント 第9回 文章の縮約（2） 第10回 添削とコメント（2） 第11回 改まった手紙文 第12回 自己アピール、自己推薦文 第13回 敬語の使い方 第14回 誤りやすい漢字・熟語 第15回 まとめ		
進め方	毎回課題を提出してもらう。 国語辞典と原稿用紙（B5 400字）を持参すること。		
テキスト	プリントを使用。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	課題の提出:50% 出席:40% 特別課題:10%		

手話Ⅰ（入門）		前期 2 単位	1年
		大石 勝彦（おおいし かつひこ）	
ねらい	手話は、「日本語を手の動きに置き換えた記号」ではありません。日本語とは全く異なる体系をもった言語です。英語などの外国語に近い言語と考えていただくといいかもありません。手話は、文法的な動きをもつ顔の表情や視線などで発せられたメッセージを目（視覚）で受け取る「視覚言語」です。		
授業計画	【前期】 第1回 講義 第2回 名前・色・数字 第3回 自己紹介（家族） 第4回 職業/学生 第5回 まとめ/ゲーム 第6回 略歴 第7回 タイムテーブル 第8回 通勤/通学 第9回 まとめ/ゲーム 第10回 食習慣 第11回 スポーツ 第12回 旅行 第13回 病気/怪我 第14回 総復習 第15回 テスト		
進め方	1. 先生は手話だけで授業をすすめます。日本語の話し言葉による説明はしません。 2. 先生は学生に手話の文を話すことをあまり強制しません。 ☆大切なのは手話で話されることを「理解する」ことです。		
テキスト	テキストはありません。	参考文献	「はじめての手話」（木村晴美・市田康弘共著、日本文芸社、定価1,200円）「ろう文化」（木村晴美・市田康弘著、現代思想編集部/青土社、定価1,900円）
評価方法	出席:70% レポート:20% 定期試験:10%		

手話Ⅱ（初級）		後期 2 単位	1年
		大石 勝彦（おおいし かつひこ）	
ねらい	手話は、「日本語を手の動きに置き換えた記号」ではありません。日本語とは全く異なる体系をもった言語です。英語などの外国語に近い言語と考えていただくといいかもありません。手話は、文法的な動きをもつ顔の表情や視線などで発せられたメッセージを目（視覚）で受け取る「視覚言語」です。		
授業計画	【後期】 第1回 前期の復習 第2回 学校 第3回 運動会 第4回 休日の過ごし 第5回 まとめ/ゲーム 第6回 学校の帰り 第7回 過去のペット 第8回 映画 第9回 まとめ/ゲーム 第10回 趣味 第11回 お正月 第12回 栄養/ダイエット 第13回 デフゲスト 第14回 総復習 第15回 テスト		
進め方	1. 先生は手話だけで授業をすすめます。日本語の話し言葉による説明はしません。 2. 先生は学生に手話の文を話すことをあまり強制しません。 ☆大切なのは手話で話されることを「理解する」ことです。		
テキスト	テキストはありません。	参考文献	「はじめての手話」（木村晴美・市田康弘共著、日本文芸社、定価1,200円）「ろう文化」（木村晴美・市田康弘著、現代思想編集部/青土社、定価1,900円）
評価方法	出席:70% レポート:20% 定期試験:10%		

Japanese Culture I		前期 2 単位	1年
Studying and discussing in English various aspects of Japanese culture		ウィルソン (WILSON, J. S.)	
ねらい	This course will provide opportunities to study and discuss Japanese culture, and consider how it is viewed from a Western perspective. Students will also learn how to explain Japanese culture in English.		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Course Intro & Kabuki I (Quiz) 第2回 Koinobori & Boy's Day 第3回 Miso, Shoyu & Tohu 第4回 National Holidays 第5回 Take 第6回 Kimono 第7回 Japanese Religion I 第8回 Tanuki, Kappa, Tengu & Maneki Neko 第9回 Kabuki II 第10回 Kekkon & Omiai 第11回 Washi & Chiyogami 第12回 Japanese Sports 第13回 Japanese Games 第14回 Review 第15回 TEST		
進め方	All classes will be conducted IN ENGLISH. The teacher will use English to teach this class, and students are expected to read, write, and discuss in English. Readings will be handed out one week in advance, and students must prepare for the class by reading the material and answering worksheet questions.		
テキスト	Introduction to Japanese Culture edited by Daniel Sosnoski	参考文献	The teacher will provide supplemental materials each week.
評価方法	preparation, discussion, and attendance:70% semester-end test:30%		

Japanese Culture II		後期 2 単位	1年
Studying and discussing in English various aspects of Japanese culture		ウィルソン (WILSON, J. S.)	
ねらい	This course will provide opportunities to study and discuss Japanese culture, and consider how it is viewed from a Western perspective. Students will also learn how to explain Japanese culture in English.		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Course Intro and Mata Tabi 第2回 Enka 第3回 Soba & Udon 第4回 Geta 第5回 Japanese Writing 第6回 Japanese Names 第7回 Shichi-Go-San 第8回 Ocha & Chanoyu 第9回 Japanese Religion II 第10回 Kabuki III 第11回 Hagoita 第12回 Hanafuda & Hyakunin Isshu 第13回 Review 第14回 Modern Culture / Otaku 第15回 TEST		
進め方	All classes will be conducted IN ENGLISH. The teacher will use English to teach this class, and students are expected to read, write, and discuss in English. Readings will be handed out one week in advance, and students must prepare for the class by reading the material and answering worksheet questions.		
テキスト	Introduction to Japanese Culture edited by Daniel Sosnoski	参考文献	The teacher will provide supplemental materials each week.
評価方法	preparation, discussion, and attendance :70% semester-end test :30%		

社会思想史Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
次なる社会へのヴィジョンⅠ—われわれの来歴—		安岡 直（やすおか すなお）	
ねらい	日本はこれからどこへ向かうのか。今のところ政府からはどのようなメッセージも発せられておらず、その行方は誰にも分からない。しかし、だからこそ我々は、現在の我々がどのような「立ち位置」にあるのかをクリアーに認識しておく必要がある。こうした観点から、この授業では、現状に関する出来るかぎり客観的で透明な認識の獲得を目指してい		
授業計画	【前期】 第1回 はじめに 『現在』はいつ始まったのか 第2回 戦後の日本社会／高度経済成長を支えた枠組み 第3回 吉田ドクトリン／戦後の日米関係 第4回 高度成長期（1955年～1973年）の日本人とその生活 第5回 高度成長期の終焉と新たな問い 第6回 日米貿易摩擦／変質する国際社会での日本の地位 第7回 ジャパン アズ ナンバーワン？ 第8回 中曽根内閣（1982年）の登場／戦後政治の総決算 第9回 ブラザ合意とその背景 第10回 バブルへの道 第11回 1980年代後半の日本社会／バブルの時代 第12回 消費ブームとカタログ化／マニュアル人間 第13回 バブルの破綻 第14回 1990年 「失われた10年」の始まり 第15回 テスト		
進め方	講義形式で進めていくが、授業中、適宜受講生の発言を求めていく。		
テキスト	特に定めず、配布資料を用意する。	参考文献	その都度、項目毎に参考文献を指示する。
評価方法	授業中の質問・発言：30% レポート：30% テスト：40%		

社会思想史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
次なる社会へのヴィジョンⅡ—我々の立ち位置—		安岡 直（やすおか すなお）	
ねらい	日本はこれからどこへ向かうのか。政府からはどのようなメッセージも発せられておらず、現在のところその行方は誰にも分からない。しかし、だからこそ我々は、現在の我々がどのような「立ち位置」にあるのかをクリアーに認識しておく必要がある。こうした観点から、この授業では、現状に関する出来るかぎり客観的で透明な認識の獲得を目指して		
授業計画	【後期】 第1回 失われた10年 バブルの破綻とその影響 第2回 失われた10年 55年体制の終わり／政治改革の始まり 第3回 失われた10年 ポストバブルの日本社会 第4回 冷戦の終結と湾岸戦争／湾岸戦争が突きつけた問い 第5回 吉田ドクトリンのリミット 第6回 平成不況と経済構造の変質 第7回 新たなヴィジョンの模索 第8回 世紀末日本／オウム事件 第9回 世紀末日本／援助交際 第10回 小泉内閣の登場／構造改革 第11回 小泉とブッシュ／イラク戦争と日本 第12回 新たな日米関係／日本は何を選択したのか 第13回 構造改革の進展／格差社会の始まり 第14回 自由市場主義／マッド・マネーの暴走と破綻 第15回 テスト		
進め方	講義形式で進めていくが、授業中、学生諸君の発言を適宜求めていく。		
テキスト	特に指定せず、配布資料を活用する。	参考文献	その都度、項目毎に指示する。
評価方法	授業中の質問・発言：30% レポート：30% テスト：40%		

法学Ⅰ（日本国憲法）		前期 2 単位	1・2・3年
法学の基礎と憲法の基本を学ぶ		信澤 久美子（のぶさわ くみこ）	
ねらい	基本的な法学と憲法の知識を教えます。「現代社会と法律」では法律の現代的な問題を中心に応用的な問題を扱うのに対して、本講義では、資格取得に必要な「日本国憲法」として、基礎的な知識をしっかりと教えることを目標とします。公務員試験・法学部への編入等をめざす人は本講義をとって下さい。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨ ン 法学と憲法について 第2回 法学を学ぶにあたって 第3回 法とは何か 社会と規範 第4回 法とは何か 日本法と外国法 第5回 法の発展 法の発展と社会の発展 第6回 法の発展 近代社会・現代社会の法 第7回 法と裁判 裁判制度 第8回 裁判の基準 制定法と判例法 第9回 法の解釈 概念法学と自由法学 第10回 近代国家と憲法 明治憲法 日本国憲法 第11回 権力分立 違憲立法審査権 第12回 基本的人権 法の下の平等など 第13回 基本的人権 表現の自由・情報プライバシー・アクセス権 第14回 基本的人権 思想・良心・信教の自由など 第15回 テスト		
進め方	基本的に講義形式です。教科書に沿って進みますので、必ず教科書を持ってきて下さい。原則的に教科書の章ごとに進みます。講義では、教科書に書いていないことも補って教えますので、情報量がとても多くなります。テスト前の一夜漬けはききませんので、毎回、ノートをしっかりとりょうに心がけて下さい。		
テキスト	末川博編『法学入門』有斐閣双書	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	出席及び授業参加:7% テスト:93%		

法学Ⅰ（日本国憲法）		後期 2 単位	1・2・3年
憲法と法学の基礎を学ぶ		山岸 秀（やまぎし しげる）	
ねらい	(1) 現在までに学んできた知性を生かしつつ、平和主義・民主権・基本的人権の尊重という憲法の基本原則についての知識を、憲法歴史を踏まえて学習して確実なものとし、現代社会に生きる人間としての人権感覚を習得する。(2) 民法・刑法・手続法などの基本法、司法制度・手続の基本意識を習得し、さまざまな社会事象を法の目から見る力を養		
授業計画	【後期】 第1回 法・法律とは 第2回 憲法の基礎(1) 日本国憲法の特長・明治憲法との違い 第3回 憲法の基礎(2) 国際化社会における憲法・条約の重要性 第4回 憲法の基礎(3) 平和主義以外の基本原則(平和主義は最後) 第5回 憲法の基礎(4) 人権の歴史・人権の体系 第6回 憲法の基礎(5) 人権制約の原理 第7回 天皇制について 第8回 犯罪と法 刑法・刑事手続法について 第9回 教育と法 (1) 教育法と教育法学 第10回 教育と法 (2) 具体的問題と法 (非行・不登校・体罰) 第11回 民法の基礎 (1) 財産関係と民法 第12回 民法の基礎 (2) 身分・相続と民法 第13回 平和と法 (1) 憲法9条の意義 第14回 平和と法 (2) 9条の歴史・不戦条約・国連 第15回 まとめ		
進め方	例年受講者の数がかなり多いので講義中心に進めざるをえない。質問など受け付ける十分な時間をとることもむずかしいので、適宜、小レポートを書いてもらったりしながら受講生の主体的参加の工夫をしてゆきたい。		
テキスト	特に指定はしない。適当な文献、資料を授業中に推薦。授業はプリントをなるべく配布してそれに添うように進める。	参考文献	六法・教育六法、他に随時紹介
評価方法	テスト:60% 小レポート:20% 出席:20%		

法学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
法学の基礎と民法の基本を学ぶ		信澤 久美子 (のぶさわ くみこ)	
ねらい	法学Ⅱでは、主に民法の基本を学びます。「法学Ⅰ」や「現代社会と法律」もあわせて履修するとよりわかりやすくなると思いますが、法学Ⅱだけとっても大丈夫です。法学Ⅰで扱う憲法とは違って、民法はより生活に密着した法律ですから、知っておくととてもためになります。		
授業計画	【後期】 第1回 イントロダクション 法とは何か 第2回 法学基礎の基礎 第3回 犯罪と刑罰 刑事責任と民事責任 第4回 犯罪と刑罰 罪刑法定主義とは？ 第5回 家族 結婚・離婚の昔と現在 第6回 家族 親子関係・相続 第7回 契約法 契約の成立 契約当事者・契約内容・意思表示 第8回 契約法 契約の効果 詐欺・強迫 債務不履行 第9回 契約法 消費者法の基礎 附合契約 第10回 財産法 物権と債権 財産権の制約 第11回 損害賠償法 不法行為法 第12回 損害賠償法 使用者責任・土地工作物責任・保険 第13回 環境法 公害 第14回 環境法 地球環境問題 第15回 テスト		
進め方	教科書に沿って進みます。テキストは法学Ⅰと共通です。法学Ⅱは、法学Ⅰに続いてテキスト『法学入門』の第9講から始まります。法学Ⅰをとっておいたほうがわかりやすいかもしれませんが、法学Ⅱだけとってもわからないということはありません。教科書は毎回必ず持ってきて下さい。毎回、ノートをしっかりとって下さい。		
テキスト	末川博編『法学入門』有斐閣双書	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	出席・授業参加:7% テスト:93%		

政治学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
民主主義政治への視点		松本 高明 (まつもと たかあき)	
ねらい	現代政治学に必須である「民主主義政治」の考え方や国内政治について扱う。今年は選挙の年であるが、大衆民主主義社会と言うべき現代日本では、有権者の政治的無関心や移ろいやすい政治意識によって劇場型政治が跋扈している。本講座では政治の主役たる有権者が持つべき「政治に対する視点」を、知識と実践両面から紹介していきたいと考えて		
授業計画	【前期】 第1回 原論(1) 「政治とは？」身近な視点から 第2回 原論(2) 集団とリーダーシップ 第3回 原論(3) 権力と支配、そして支持 第4回 原論(4) 社会、そして政治意識 第5回 原論(5) 政治参加とは？ 第6回 民主主義(1) 政治共同体とナショナリズム 第7回 民主主義(2) 民主主義とその成長 第8回 民主主義(3) 権力と民主主義 第9回 民主主義(4) 現代の権力構造と問題点 第10回 現代政治(1) 議会政治の基本 第11回 現代政治(2) 政治制度の基礎知識 第12回 現代政治(3) 政治参加と選挙制度 第13回 現代政治(4) そのダイナミクス 第14回 現代政治(5) メディアと政治 第15回 現代政治(6) 地方政治の可能性		
進め方	講義自体は大きく3段に分けて進める。各回の内容は上記を参考にして貰いたいですが、時事問題にも解説を加えるので教室にて若干の調整を行う予定。実施方法は、各回質問票に時事トピックを書き込んでもらい、その中から授業内容に関連する事象を中心に解説を加え、理解に資する。また基礎知識体得の為、選挙レポート等の小レポートを数回提出してもらう。なお、歴史		
テキスト	阿部齋、久保文明、山岡龍一編著『政治学入門』放送大学教育振興会、2000年3月	参考文献	高島通敏著『政治学への道案内』三一書房、1988年 山口二郎、杉田敦編著『現代日本の政治』放送大
評価方法	出席状況:40% レポート:60%		

政治学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
国際政治と21世紀の課題		松本 高明（まつもと たかあき）	
ねらい	本講座では、現代国際政治における諸問題を理解する視点として、「国際社会の構造はどのように説明されてきたのか」、そして「現代においてどのように変質してきたのか」という2点を理解していただくことを主目的とする。特に後半では中国とその周辺国を取り上げることで参加者の理解を深めたい。		
授業計画	【後期】 第1回 原論（1） 国際社会とは？ 第2回 原論（2） 現代に至る世界地図、そして東アジア 第3回 原論（3） 西欧国際社会から広がった「国際」政治 第4回 原論（4） 国民国家体系入門 第5回 原論（5） 国家に対する二つのアプローチ 第6回 事例：中国（1） 国家建設の困難 第7回 事例：中国（2） 国民統合へ 第8回 事例：中国（3） 統一市場の創造 第9回 事例：中国（4） 格差と流動 第10回 事例：中国（5） 周辺国との関係 第11回 現代政治（1） 超国家・国家間・地域 第12回 現代政治（2） ナショナリティとエスニシティ 第13回 現代政治（3） 世界を覆う各種格差 第14回 現代政治（4） 国境を越える諸課題～経済・移民・環境 第15回 現代政治（5） 21世紀国際政治への視点		
進め方	毎回講義の初めに、出席者に質問票を記入してもらい、それに解説を加えることで、時事問題に関心を持ってもらうようにする。また、理論も扱うので、理解度を問うレポートも課す予定である。		
テキスト	山影進・小和田恒著『国際関係論』放送大学教育振興会（2002/04）	参考文献	岡部達味著『国際政治の分析枠組』（東大出版会）。このほか、授業中に紹介。
評価方法	出席：40% レポート：60%		

経済学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
経済学入門Ⅰ		秋富 創（あきとみ はじめ）	
ねらい	経済学（ミクロ・マクロ）の基礎的な理論や概念について学習する。後期の「経済学Ⅱ」と合わせて履修することが望ましいが、経済学の基礎について学習したい場合は、「経済学Ⅰ」の履修だけでも十分である。		
授業計画	【前期】 第1回 経済学とはどのような学問か 第2回 市場（1）～分業と協業① 第3回 市場（2）～分業と協業② 第4回 市場（3）～需要と供給① 第5回 市場（4）～需要と供給② 第6回 金融（1）～貨幣・金利・物価① 第7回 金融（2）～貨幣・金利・物価② 第8回 金融（3）～政府・企業・家計 第9回 企業～経営と投資 第10回 家計～労働と消費 第11回 政府（1）～市場の失敗と所得再分配 第12回 政府（2）～経済政策と景気調節 第13回 国際経済（1）～グローバリゼーションと自由貿易 第14回 国際経済（2）～国内総生産と貿易収支 第15回 試験		
進め方	講義が中心となるが、時事問題を扱った資料などを適宜配布する。出席は数回取るが、成績評価の7割は期末試験で決定する。初歩的な内容から中級程度の内容までを扱うため、単位取得のためには積極的な学習態度が要求される。		
テキスト	教科書は特に指定しない（購買義務はない）。	参考文献	伊藤元重『はじめての経済学（上・下）』（日経文庫）など。その他の文献については授業中に紹介する。
評価方法	出席：30% 試験：70%		

経済学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
経済学入門Ⅱ		秋富 創（あきとみ はじめ）	
ねらい	現代までのミクロ・マクロ経済学の歴史的系譜について、それぞれの時代状況や史実に即して系統的に学習する。前期「経済学Ⅰ」が理論的・抽象的な内容を扱っていたのに対し、本講義は歴史的な観点を重視し、実践的・具体的な内容を扱っており、内容的には「経済学Ⅰ」よりも難易度が高い。前期「経済学Ⅰ」と合わせて履修することが望ましい。		
授業計画	【後期】 第1回 経済学の系譜とは 第2回 古典派① 第3回 古典派② 第4回 古典派③ 第5回 モラル・エコノミー 第6回 歴史学派 第7回 マルクス学派① 第8回 マルクス学派② 第9回 新古典派① 第10回 新古典派② 第11回 制度学派 第12回 ケインズ学派① 第13回 ケインズ学派② 第14回 反ケインズ学派 第15回 試験		
進め方	講義が中心となるが、内容に即した復習プリントを随時配布する。中級程度の問題を扱っているため、単位取得のためには積極的な学習態度が要求される。		
テキスト	教科書は特に指定しない（購買義務はない）。	参考文献	小田中直樹『ライブ・経済学の歴史』（勁草書房） その他の文献については、授業中に紹介する。
評価方法	出席:30% 試験:70%		

経済学Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
金融の基礎を学ぶ		阿川 裕里（あがわ ひろさと）	
ねらい	世界経済は現在、百年に一度といわれる金融危機に見舞われている。歴史的にみると、こうした事件は、17世紀オランダのチューリップ熱以来多年草のように繰り返し蘇ってきた。授業では、金融危機の歴史を検証して、金融の基礎を学習する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 ガイダンス 第3回 レポーターによる報告と討論 第4回 レポーターによる報告と討論 第5回 レポーターによる報告と討論 第6回 レポーターによる報告と討論 第7回 レポーターによる報告と討論 第8回 レポーターによる報告と討論 第9回 レポーターによる報告と討論 第10回 レポーターによる報告と討論 第11回 レポーターによる報告と討論 第12回 レポーターによる報告と討論 第13回 レポーターによる報告と討論 第14回 レポーターによる報告と討論 第15回 まとめ		
進め方	学生による報告によって進める。レポーターは希望者によるが、希望者がいない場合には指名する。出欠は毎回確認する。		
テキスト	授業初日に指定する。	参考文献	授業初日に紹介する。
評価方法	期末レポート:50% 報告:20% 出席:30%		

経済学Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
雇用社会を学ぶ		阿川 裕里 (あがわ ひろさと)	
ねらい	企業に就職すると、職場ではさまざまな雇用問題に直面する。たとえば男女間の処遇格差、正社員の長時間労働、非正社員の不安定な雇用条件、子育て支援の不足など。授業では、これらの問題を主に経済学の視点から検証し、雇用社会を生き抜く知恵を学習する。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 ガイダンス 第3回 レポーターによる報告と討論 第4回 レポーターによる報告と討論 第5回 レポーターによる報告と討論 第6回 レポーターによる報告と討論 第7回 レポーターによる報告と討論 第8回 レポーターによる報告と討論 第9回 レポーターによる報告と討論 第10回 レポーターによる報告と討論 第11回 レポーターによる報告と討論 第12回 レポーターによる報告と討論 第13回 レポーターによる報告と討論 第14回 レポーターによる報告と討論 第15回 まとめ		
進め方	学生によるレポートによって進める。レポーターは希望者によるが、希望者がいない場合には指名する。出欠は毎回確認する。		
テキスト	授業初日に指定する。	参考文献	授業初日に紹介する。
評価方法	期末レポート:50% 報告:20% 出席:30%		

経営学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
企業の特徴と経営理論の流れ		須原 佐智子 (すはら さちこ)	
ねらい	経営学を初めて学ぶ学生のために、「経営学とは何か」をわかりやすく紹介した後、経営学の流れを史的にとらえ、経営理論の変遷を学ぶ。次の学習段階（経営学Ⅱも含む）への道標となることを目的としている。		
授業計画	【前期】 第1回 授業の進め方、テキストについて、P.P.作成 第2回 「経営学とは」その位置づけと隣接諸科学について。 第3回 企業の特徴。 第4回 企業の種類。 第5回 株式会社の特徴と仕組み。 第6回 経営理論の流れ①経営学の発生（独・米にみる） 第7回 ②テイラーと科学的管理法 第8回 ③ヘンリー・フォードとフォードイズム 第9回 ④ファヨールと管理過程論 第10回 ⑤メイヨーと人間関係論 第11回 ⑥行動科学と統合理論（Ⅰ） 第12回 " "（Ⅱ） 第13回 ⑦バーナード革命とサイモン 第14回 ⑧組織間関係論へ 第15回 試験		
進め方	講義が中心となるが、予習（次回テキスト部分）と復習（小テストに関する確認）が必要なため、受講者は主体的関心を持って授業に参加して欲しい。		
テキスト	井原久光著『テキスト経営学【増補版】』 一基 礎から最新の理論まで一（ミネルヴァ書房）	参考文献	図書館カウンターにある2008年度指定参考目録を参照。 授業後、必要に応じて新しい参考文献を紹介する。
評価方法	定期試験:70% 出席:20% 授業中の小テスト:10%		

経営学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
経営管理の本質と基礎的展開		須原 佐智子（すはら さちこ）	
ねらい	後期では、前期の理論学習をふまえて組織と個別管理の理論を学ぶと共に、女性の働き方についても考察してみましよう。経営学は、個人、組織。社会のあり方を見る目を養うと共に、“本当にやりたいこと”探しの、リベラルアーツとして己の生き方に通じ、とても面白い学問です。共に学びましょう。		
授業計画	【後期】 第1回 授業の進め方。P、P作成。前期試験の結果について。 第2回 組織とは何か―①組織の特徴、伝統的組織論。 第3回 ②新古典的組織論、近代組織論。 第4回 基本的な組織形態 第5回 現実の組織形態―①職能部門組織と事業部制組織 第6回 ②プロジェクト組織とマトリックス組織 第7回 個別の管理論と経営論―①経営戦略論 第8回 ②人事管理とリーダーシップ論 第9回 ③マーケティング論 第10回 ④生産管理論 第11回 ⑤財務管理論 第12回 日本の経営論―その特徴、長所短所、成功と変質 第13回 現代社会と企業―①企業の国際化と統合 第14回 ②成熟社会と企業 第15回 試験		
進め方	前期と同じ。		
テキスト	井原光久著『テキスト経営学【増補版】』一基礎から最新の理論まで―（ミネルヴァ書房）	参考文献	経営学史学会編『日本の経営学を築いた人びと』（文眞堂） 授業後、必要に応じて新しい参考文献は紹介する。
評価方法	定期試験：70% 出席：20% 授業中の小テスト：10%		

社会学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
現代社会と現代人の行動について学ぶ		渡邊 良智（わたなべ よしとも）	
ねらい	社会学は、人間の形づくる集団や社会生活、そして社会を研究し、社会的存在としての人間の行動を研究対象とする。あるいは、現代社会に生きている人間の行動を集団のレベルを中心に考察する。この講義では、ミクロな個人レベルからマクロな社会レベルまで、いくつかのテーマの考察を通して、社会学的なものの見方・思考法を追求してみた		
授業計画	【前期】 第1回 序論 社会学の性格と基礎概念 第2回 個人と社会（1） 社会的ジレンマ 第3回 個人と社会（2） 社会化と社会的性格 第4回 家族と親族（1） 第5回 家族と親族（2） 第6回 結婚と離婚（1） 第7回 結婚と離婚（2） 第8回 不平等な社会（1） 社会階級 第9回 不平等な社会（2） 社会階層と社会移動 第10回 不平等な社会（3） 学歴社会と格差社会 第11回 噂・流言・都市伝説（1） 噂・流言・デマ 第12回 噂・流言・都市伝説（2） 噂の発生・伝播・影響 第13回 噂・流言・都市伝説（3） 都市伝説 第14回 噂・流言・都市伝説（4） 噂・流言対策 第15回 試験		
進め方	講義形式で行う。		
テキスト	特に使用しない。	参考文献	A・ギデンズ著『社会学』（而立書房） W・グード著『社会学の基本的な考え方』（而立書房） 山本努・辻正二・稲月正著『現代の社会学的解読』（学
評価方法	出席：15% 定期試験：85%		

社会学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
家族のありかたと社会変動		永田 夏来 (ながた なつき)	
ねらい	本講義では、社会学的な視点を用いて日本の家族のありかたについての考察をおこなう。家族のありかたと社会変化の関係を考えるための基本的な概念を理解し、家族および家族をめぐる人間関係をあらためて見直す視点を身につけることを目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンスー家族社会学の射程 第2回 社会の変化に運動した家族のあり方(1) 第3回 社会の変化に運動した家族のあり方(2) 第4回 家族の成立と男らしさ・女らしさ 第5回 若者にととの家族 第6回 家族が果たす役割の変化 第7回 夫と妻の性別役割分業 第8回 結婚・離婚と多様な夫婦関係 第9回 パラサイトシングルと未婚化社会 第10回 ドメスティックバイオレンスと家族 第11回 社会が求める「親らしさ」 第12回 高齢者がいる家族が抱える問題 第13回 障がいを持つ人と家族 第14回 さまざまな家族のかたち 第15回 まとめーこれからの家族のあり方とは		
進め方	配布プリントとスライドで講義内容を詳説する。授業中に短いレポートを書いてもらうこともある。		
テキスト	土屋葉編著『これからの家族関係学』角川学芸出版2,000円。	参考文献	
評価方法	平常点:20% 試験:80%		

心理学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
心理学とはどのような学問か		武田 美亜 (たけだ みあ)	
ねらい	心理学と言ってもさまざまな研究分野がある。これも心理学なの？と思う分野もあるかもしれない。特に心の基本的なしくみを扱う領域に関するテーマを中心に紹介する。この授業をきっかけに自分の興味関心を見つけて自分なりに深めていってほしい。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス：占いとの違い、科学としての心理学 第2回 心理学の研究法：人の心をどのようにして知る(測る)のか 第3回 感覚と知覚(外界情報の選別、さまざまな錯視) 第4回 認知のしくみ1：コンピュータとの類似点と相違点 第5回 認知のしくみ2：人はどのように物事を判断するか 第6回 記憶のしくみ 第7回 学習のしくみ1：学習するとは 第8回 学習のしくみ2：自ら学習するとはどういうことか 第9回 欲求と動機づけ：人は何に動かされるのか 第10回 パーソナリティ1：パーソナリティ理論、自分のパーソナリティを考える 第11回 パーソナリティ2：健康なパーソナリティとは 第12回 対人行動：援助行動、攻撃行動 第13回 社会的影響：説得、同調行動、服従 第14回 集団の心理：社会的な手抜き、集団思考のメリットとデメリット 第15回 全体のまとめ：心とは何か、人間とはいかなるものか		
進め方	基本的に講義形式で行うが、簡単な実験を行ったり、自分の意見を出してもらったりする機会をできるだけ設けたい。ただ話を聞くだけでなく、自分の頭と体を積極的に使ってほしい。		
テキスト	特に指定しない。	参考文献	グラフィック心理学 サイエンス社 このほか授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席:20% レポート:20% 試験:60%		

心理学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
対人関係とコミュニケーションの心理学		武田 美亜 (たけだ みあ)	
ねらい	社会的動物と言われる私たち人間にとって欠かせない他者との関係および他者とのコミュニケーションについて見ていく。ふだんの自分の対人関係やコミュニケーションにも照らし合わせて考えてみてほしい。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 対人認知・対人魅力 第3回 親密化過程 第4回 恋愛関係：友情と恋愛の違い、恋愛のタイプ 第5回 社会的交換1：社会的交換という考え方 第6回 社会的交換2：相互依存関係、社会的ジレンマ 第7回 対人葛藤：葛藤の様相、葛藤への対処 第8回 コミュニケーションとは 第9回 ことばによるコミュニケーション 第10回 非言語コミュニケーション 第11回 自己とは：他者あつての自己 第12回 自己の表出1：自己呈示 第13回 自己の表出2：自己開示 第14回 ソーシャルスキルという考え方 第15回 全体のまとめ：どのように他者と接していくか		
進め方	基本的に講義形式で行うが、簡単な実験を行ったり、自分の意見を出してもらったりする機会をできるだけ設けたい。ただ話を聞くだけでなく、自分の頭と体を積極的に使ってほしい。		
テキスト	特に指定しない。	参考文献	グラフィック心理学 サイエンス社 このほか授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席:20% レポート:20% 試験:60%		

心理学Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
社会と個人		山田 歩 (やまだ あゆみ)	
ねらい	人間は社会的存在である。われわれの心や行動は、他者との関係の中で形成される。この講義では、心理学一般のトピックにもふれながら、自己や他者、また、社会的な事柄に関する判断などに焦点をあてた社会心理学的研究を紹介し、人々が社会の中でどのようにふるまっているのか、また社会とどのように向き合っているのかを考えていく。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 社会的影響 第3回 要請と承諾 第4回 態度と態度変化 第5回 社会的推論とその歪み1 第6回 社会的推論とその歪み2 第7回 対人認知と対人行動 第8回 対人認知のゆがみ 第9回 自己に関する推論1 第10回 自己に関する推論2 第11回 リスクと意思決定1 第12回 リスクと意思決定2 第13回 環境と社会行動 第14回 全体のまとめ 第15回 定期試験		
進め方	・講義が中心となるが、視覚教材や実習を取り入れながら進める予定である。・授業の一環として、実験やアンケートなどの作業に参加してもらう予定である。		
テキスト	特になし。プリントを配ります。	参考文献	池上知子・遠藤由美 (2008) 『グラフィック社会心理学』サイエンス社 チャルディーニ (1991) 『影響力の武器』誠信書房
評価方法	試験:40% レポート:40% 授業中の課題:20%		

心理学Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
集団と個人の関わり		山田 歩 (やまだ あゆみ)	
ねらい	人間は社会的存在である。われわれの心や行動は、他者や集団との関係の中で形成されていく。この講義では、心理学一般のトピックにもふれながら、集団と個人の関わりに焦点をあてた社会心理学的研究を紹介し、人々が社会の中でどのようにふるまっているのか、また社会とどのように向き合っているのかを考えていく。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 うわさと流言 1 第3回 うわさと流言 2 第4回 差別と偏見 第5回 ステレオタイプ 第6回 援助と攻撃 第7回 対人魅力 第8回 集団とは 第9回 集団内での影響過程と同調・逸脱 第10回 集団の中での課題遂行 第11回 集団の意思決定 1 第12回 集団の意思決定 2 第13回 競争と協力・社会的ジレンマ 第14回 全体のまとめ 第15回 試験		
進め方	・講義が中心となるが、視覚教材や実習を取り入れながら進める予定である。・授業の一環として、実験やアンケートなどの作業に参加してもらう予定である。		
テキスト	特になし	参考文献	池上知子・遠藤由美 (2008) 『グラフィック社会心理学』サイエンス社 など。他に適宜紹介します。
評価方法	試験:40% レポート:40% 授業中の課題:20%		

心理学Ⅴ		前期 2 単位	1・2・3年
心の働きと行動のメカニズム：イヌに心はあるか？		木村 直人 (きむら なおと)	
ねらい	この講義では「ヒト」という生きものの行動について取り上げます。私たちヒトには心がある。ではイヌには？サルには？ミツバチには？メダカには？こうしたことを考えていくことによって、ヒトが「なぜ今しているように振る舞うのか」をヒト以外の動物と比較し、ヒトの行動の特徴をひいてはヒトへの認識を深めることが目的です。		
授業計画	【前期】 第1回 心的機能の連続性 第2回 犬に心はあるか？ 第3回 サルとヒトとを分かちもの、ヒトだけが持つ特徴とは 第4回 ヒトの言語とイヌの吠え声を比較すると 第5回 サルに言語を教えようとした研究 第6回 サルは意味が理解できているのか 第7回 本能的行動の仕組みを探る 第8回 テンバーゲンの4つの疑問 第9回 生得的解発機構：生得的で不可逆的な記憶 第10回 刷り込み：習得的ではあるが不可逆的な記憶 第11回 初期経験と愛情 第12回 私たちの個性は遺伝か環境か 第13回 野生児：学習の経験がなかったら 第14回 条件づけ：学習の最も基本的なメカニズムのひとつ 第15回 学習：習得的かつ可逆的な記憶		
進め方	講義形式ですが、ほぼ毎回興味深いビデオクリップを用意します。講義サイトを利用して受講生と担当者とのインタラクティブで能動的な学習の場を提供しますので、ぜひ活用してください。また詳しいシラバス、講義内容と計画を下記URLでお知らせしていますので、受講希望の方は必ず目を通して下さ		
テキスト	テキストは利用しませんが、次のURLで講義資料を配付します。 http://spot4u.net/	参考文献	講義サイトに掲載します。
評価方法	期末試験:80% 復習課題3回:20%		

心理学Ⅵ		後期 2 単位	1・2・3年
認識のメカニズム：見ている世界は現実か？		木村 直人（きむら なおと）	
ねらい	この世界を今見えているように見せているのは「心」の働きです。そうした「心」をあなた方一人一人が持っていること、自分の中ではそれほど複雑な働きが絶え間なく行われていることを知ってもらいたいと思います。また見たものほどのようにして記憶になるのでしょうか。そうした知覚と記憶の仕組みを取り上げていきます。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス：見るとは解釈すること 第2回 外界と見えとのギャップ 第3回 なぜ眼を開けるとものが見えるのか 第4回 感覚により選択される世界 第5回 視覚受容器の構造と機能 第6回 視覚現象：形が見える 第7回 視覚現象：大きさを判断する 第8回 視覚現象：顔が見える 第9回 記憶障害が教えること 第10回 短期記憶における情報の符号化、貯蔵 第11回 短期記憶における情報の検索 第12回 長期記憶における情報の符号化、貯蔵 第13回 長期記憶における情報の検索 第14回 長期記憶の構造 第15回 記憶を向上させる方法		
進め方	講義形式ですが、ほぼ毎回興味深いビデオクリップを用意します。講義サイトを利用して受講生と担当者とのインタラクティブで能動的な学習の場を提供しますので、ぜひ活用してください。また詳しいシラバス、講義内容と計画を下記URLでお知らせしていますので、受講希望の方は必ず目を通して下さい		
テキスト	テキストは利用しませんが、次のURLで講義資料を配付します。 http://spot4u.net/	参考文献	講義サイトに掲載します。
評価方法	期末試験：80% 復習課題3回：20%		

心理学Ⅶ		前期 2 単位	1・2・3年
臨床心理学・・・心理療法とこころの理解		田中 志帆（たなか しほ）	
ねらい	臨床心理学はカウンセリングや心理療法についての学問です。しかし、心理療法の技法、理論は百花繚乱であるのが現状です。この講義では、いくつかの主な学派と技法について紹介し、人間の心身の失調の意味について、解説を行います。ともに人間のこころについて考えましょう。事例検討も行います。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス：臨床心理学とその他の心理学の違い 第2回 精神医療の歴史・・・日本と海外について 第3回 主な精神疾患1・・・神経症、人格障害 第4回 主な精神疾患2・・・うつ病、統合失調症、認知症 第5回 心理療法、カウンセリングの発祥と発展 第6回 精神分析①フロイトの理論・・・無意識の発見と心的装置 第7回 精神分析②フロイトの理論・・・防衛機制、夢の分析 第8回 行動療法①・・・学習実験と行動療法 第9回 行動療法②・・・各種技法 第10回 来談者中心療法・・・カウンセリングの基本原則 第11回 臨床描画法（実習）・・・無意識を拾いあげる 第12回 フロイト理論のその後1・・・対象関係学派 第13回 フロイト理論のその後2・・・自我心理学派 第14回 児童期の心理療法・・・事例から考える 第15回 思春期青年期の心理療法・・・事例から考える		
進め方	以上のトピックについて、各1～2回の講義を行います。実習形式で行うことがありますので、静粛かつ積極的な参加を希望します。		
テキスト	特に定めません。プリント教材を配布します。	参考文献	コンパクト新心理学ライブラリ11 臨床心理学 心の理解と援助のために 森谷寛之著 サイエンス社 1785円
評価方法	出席：40% 期末テストかレポート：60%		

心理学Ⅷ		後期 2 単位	1・2・3年
一般心理学・・・対人関係分野について		田中 志帆（たなか しほ）	
ねらい	心理学は様々な種類があります。なかでも、発達や性格、人間の相互作用や社会と個人の心理学の、古典から現代までの知見について解説します。人のこころを研究する学問である心理学の課題や面白さを共に考えましょう。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス：心理学とは何か 第2回 人間の基本感情と情動について（学習・認知心理学） 第3回 やる気と行動はどう動くか？（学習・認知心理学） 第4回 コンフリクト、ストレスについて（生理心理学） 第5回 パーソナリティー理論について（人格心理学） 第6回 パーソナリティー理論について（人格心理学） 第7回 知能指数って何？（人格心理学・教育心理学） 第8回 発達の意味・・・ゆりかごから墓場まで（発達心理学） 第9回 発達の様相・・・乳幼児期から児童期まで（発達心理学） 第10回 発達の様相・・・青年期から老年期まで（発達心理学） 第11回 ライフサイクル、発達段階の理論（発達心理学） 第12回 集団の中の個人・・・集団への同調（社会心理学） 第13回 集団の中の個人・・・パニックとデマ（社会心理学） 第14回 対人魅力と態度変容（社会心理学） 第15回 まとめ		
進め方	以上のトピックについて、各1～2回の講義を行います。講義内容の理解を深められるように、受講生が参加し、回答する形式の実習を何回か行う予定。結果は講義の中でフィードバックします。視聴覚教材も用いる予定です。今年は、前期の心理学Ⅶで臨床心理学について講義します。		
テキスト	新 自分さがしの心理学—自己理解ワークブック 1700円	参考文献	
評価方法	出席:40% レポートか期末テスト:60%		

教育学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
教育の社会文化史（日本）		吉長 真子（よしなが なおこ）	
ねらい	本講義では、「教育」を学校教育に限定せず、その意味をもっと広く人間形成（受胎調節から生涯発達まで）に関わる社会関係と文化の総体としてとらえます。そして「教育」という営みを歴史的に検証する作業を通して、自らの「教育」観を問い直し、「教育問題」を読み解く基礎的な力を養うことを目標とします。		
授業計画	【前期】 第1回 〈導入〉 「教育」とは何か 第2回 近世農村の家族生活と子育て 第3回 子どもの生命と政治—近世から近代へ 第4回 明治維新と近代学校の成立 第5回 資本主義の確立と子どもの生活 第6回 学歴社会の誕生 第7回 人口動態の変動と「教育家族」の登場 第8回 戦時下「人的資源」としての子ども 第9回 高度経済成長期の地域社会と家庭の変容 第10回 子どもの生活格差と学校の役割 第11回 障害をめぐる教育問題と運動 第12回 ジェンダーをめぐる教育問題と運動 第13回 産業構造の変容と子どもの現在 第14回 少子社会における「子育て支援」 第15回 まとめ		
進め方	講義を中心としますが、授業時間の終わりには、感想・意見を求めます。それによって授業の理解度を確認するとともに、意見交換の場を積極的に設けたいと考えています。		
テキスト	特に定めず、必要に応じて資料を配付します。	参考文献	江藤恭二監修『新版 子どもの教育の歴史』名古屋大学出版会、2008年
評価方法	出席・平常点:50% レポート:50%		

教育学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
教育の社会文化史（比較史）		吉長 真子（よしなが なおこ）	
ねらい	学校を中心とした近代教育の成り立ちやその意義と限界について、諸外国を比較軸にとりながら、日本の歴史と現在を問い直します。「教育」という営みについての認識をより深いものにしていくことを目指します。		
授業計画	【後期】 第1回 近代教育思想の特徴① 第2回 近代教育思想の特徴② 第3回 産業革命と子どもの生活① 第4回 産業革命と子どもの生活② 第5回 多産多死から少産少死へ① 第6回 多産多死から少産少死へ② 第7回 子ども親の変容と家族・学校① 第8回 子ども親の変容と家族・学校② 第9回 「母性」という神話① 第10回 「母性」という神話② 第11回 現代社会における学校の機能① 第12回 現代社会における学校の機能② 第13回 「教育」を問い直す① 第14回 「教育」を問い直す② 第15回 まとめ		
進め方	基本的に講義形式で進めますが、受講者による小レポートの報告・発表や、グループ討議などの機会を複数回設ける予定です。		
テキスト	特に定めず、必要に応じて資料を配付します。	参考文献	江藤恭二『新版 子ども教育の歴史』名古屋大学出版会、2008年
評価方法	出席・平常点:50% レポート:50%		

教育学Ⅲ		後期 2 単位	1・2・3年
現代の子どもと家族をめぐる教育諸問題を考えるために		山本 敏子（やまもと としこ）	
ねらい	生物としてのヒトの子どもが人間らしく成長していくために不可欠な経験とはどのようなものか。民俗学、文化人類学、教育と生活文化の歴史、保育学、心理学等の研究蓄積に学びながら、私たちにあって自明な「家庭教育」や「しつけ」の常識を疑い、現代家族が抱える様々な教育問題解決のために求められる新たな見方を切り開いていきます。		
授業計画	【後期】 第1回 序：「教育学Ⅲ」への招待 第2回 なぜ、「家庭教育」や「しつけ」を問うのか？ 第3回 現代の子ども・若者の存在状況と家族の風景 第4回 ヘヤー・インディアンの世界と子育て文化 第5回 日本近世の子育て文化の基層に流れる子ども親・教育観 第6回 宮本常一『家郷の訓』を読む① 第7回 宮本常一『家郷の訓』を読む② 第8回 宮本常一『家郷の訓』を読む③ 第9回 宮本常一『家郷の訓』を読む④ 第10回 宮本常一『家郷の訓』を読む⑤ 第11回 学校教育の普及と「家庭教育」の成立、「しつけ」の変質 第12回 事例から考える①—現代家族の「食卓」風景と生活文化 第13回 事例から考える②—子どもの虐待と子育て支援 第14回 事例から考える③—「引きこもり」問題と若者の自立 第15回 人間の基本的経験とは何か—「家庭教育」を超えて		
進め方	受講者の皆さんが、それぞれに内発的な問題関心というものを持ち、それについて他者との対話を通して自ら考えていくことができるよう、小レポートや個人発表、グループ討議などを、随時、授業に取り入れてやっていきたいと思います。		
テキスト	宮本常一『家郷の訓』岩波文庫、1984年、660円＋税。 その他、必要に応じて資料を配付します。	参考文献	原ひろ子『子どもの文化人類学』晶文社、1979年。 津守真『子どもの世界をどうみるか』NHKブックス、1987年。
評価方法	平常点:50% 学期末レポート:50%		

文化人類学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
ヒトとサルとの遠近		関谷 雄一（せきや ゆういち）	
ねらい	人類学は本来生物界における人間の位置づけにはじまり、人類進化の過程、直立二足歩行、脳の肥大化、道具使用及び言語使用、社会&文化的な生活の特徴に至るまで、人間に関するあらゆる科学を駆使した総合的学問である。本講義ではヒトを生物学的視点から見つめようとする自然人類学を主として取り上げることにより、		
授業計画	【前期】 第1回 霊長類の進化と特徴 第2回 類人猿とヒトの違い 第3回 南の原人が見つかるまで 第4回 ナックルウォークと直立二足歩行 第5回 脳の肥大化とこころの発達 第6回 移動する人間（ホモ・モビリティ）の話 第7回 魚を食べるようになった人類 第8回 日本人のルーツをめぐる闘い 第9回 遺伝子でたどる人間への道（1） 第10回 遺伝子でたどる人間への道（2） 第11回 人間の骨格に関する話 第12回 農耕活動と社会集団形成、どっちが先？ 第13回 島嶼人（小人）伝説について 第14回 サル山観察（上野動物園） 第15回 ゴリラ園観察（上野動物園）&まとめ		
進め方	講義中心となるが、機会を見つけて類人猿（ゴリラ・チンパンジー）観察を行いたい。詳細については初講の折に説明する。講義内容については、社会科学に結びつけた話なるべくする予定であるが、自然科学の領域の話が中心となる。学生はそうしたことも踏まえて履修選択をすること。		
テキスト	適宜配布資料を用意する。	参考文献	片山一道編著『人間史をたどる：自然人類学入門』朝倉書店、1996他。適宜紹介する。
評価方法	出席点：30% レポート：70%		

文化人類学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
現代人類学の視点		関谷 雄一（せきや ゆういち）	
ねらい	現代的文化人類学の視点を紹介する。人々の文化・社会的実践を質的に分析する方法とその結果見えてくる現代社会の複雑な様相について考察してみたい。		
授業計画	【後期】 第1回 文化人類学概論 第2回 文化の科学的説明－自然主義的アプローチ 第3回 実践における認知Ⅰ 第4回 実践における認知Ⅱ 第5回 実践現場観察 第6回 観察のまとめ・解説 第7回 実践と社会－実践共同体論Ⅰ 第8回 実践と社会－実践共同体論Ⅱ 第9回 実践と道具－人を賢くする道具 第10回 実践と空間－デザインとアフォーダンス 第11回 実践と身体－身体構築学Ⅰ 第12回 実践と身体－身体構築学Ⅱ 第13回 実践と科学－科学が作られているときⅠ 第14回 実践と科学－科学が作られているときⅡ 第15回 人類学の行先について		
進め方	基本的に講義が中心となるが、授業中の参加者の積極的な発言を期待する。画像や映像資料の紹介も行ないながら講義の主題に関する具体的なイメージをつかんでいってもらおう。なお、出席者には感想文やレポートの提出を求めていることがある。		
テキスト	山下晋司・福島真人[編]、『現代人類学のプラクシス：科学技術時代をみる視座』、有斐閣[2005]	参考文献	適宜授業の中で紹介する。
評価方法	出席点：30% レポート：70%		

人文地理学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
自然と人間の関係を通して地理学的なものの見方を養う		齋野 岳廊 (さいの たけろう)	
ねらい	<p>地理学は、自然と人間とのかかわりを通して地表に刻まれた営為の空間的特性を解明することを目的としています。したがって、その守備範囲はきわめて多岐にわたりますが、本科目では、「地域」、「環境」、「景観」といった地理学上の基礎概念をベースにさまざまな具体的事例を取り上げ、地理学の基礎的素養が身につくことをねらいとします。</p>		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 導入講義—古民家、京「町家」にみる自然と人間生活</p> <p>第2回 身近な地理を考える1—「渋谷」の今昔</p> <p>第3回 身近な地理を考える2—「東京」の自然誌</p> <p>第4回 地理学をめざすものは何か—地表の科学としての地理学</p> <p>第5回 地理学の二つの視点—系統地理学と地誌学</p> <p>第6回 ヘットナーの地誌学—二元論の克服と統一地理学の成立</p> <p>第7回 地理学における地域概念—等質地域と機能地域</p> <p>第8回 チューネンの「孤立国」の地理学的意義1—理論の概要</p> <p>第9回 チューネンの「孤立国」の地理学的意義2—機能地域</p> <p>第10回 景観学としての地理学—シュリューターのヘットナー批判</p> <p>第11回 文化景観—ヨーロッパの中世荘園にみる地域秩序の形成</p> <p>第12回 近世江戸の「三富新田」の農村景観と地域生態1</p> <p>第13回 近世江戸の「三富新田」の農村景観と地域生態2</p> <p>第14回 リサイクル社会・江戸時代の都市—農村関係</p> <p>第15回 まとめと課題</p>		
進め方	<p>講義と板書を中心とした授業になりますが、資料プリントを配布し、なるべくわかりやすく説明します。したがって高校で「地理」を選択してなくても心配は要りませんが、講義内容が多岐にわたりますから、きちんと話を聞くようにして下さい。</p>		
テキスト	<p>テキストは使用しません。ほぼ毎回、配布する資料がその代わりとなりますので、試験終了時まで保管して下さい。</p>	参考文献	<p>中村和郎・手塚章・石井英也著(1991)：『地域と景観』（古今書院）</p> <p>犬井 正著(2002)：『里山と人の履歴』（新思索）</p>
評価方法	出席:20% 小テストなど平常点:30% 定期試験:50%		

人文地理学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
都市地理学の基礎と応用		齋野 岳廊 (さいの たけろう)	
ねらい	<p>地理学が研究対象とする「地域」は、単なる平板な空間ではなく、中心に核をもった存在ととらえることができます。その意味で、地域の中心核こそ「都市」にほかなりません。現代社会は都市化社会ともいわれますが、本科目では、都市にまつわる多様な問題を地理学的、経済学的立場から取り上げることにします。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 導入講義—文明装置としての都市</p> <p>第2回 都市をどう定義するか(1)—ウエーバー、鈴木栄太郎</p> <p>第3回 都市をどう定義するか(2)—クリスタラー、ボーベック</p> <p>第4回 都市の本質的要素—高密度性、求心力、結節性</p> <p>第5回 都市を成長させる要因は何か(1)—都市の経済基盤</p> <p>第6回 都市成長の要因(2)—都市の基盤産業と乗数効果</p> <p>第7回 都市立地論(1)—クリスタラーの「中心地理論」</p> <p>第8回 都市立地論(2)—中心地モデルの作図</p> <p>第9回 大都市の地域分化—バリを例として</p> <p>第10回 大都市内部で地域分化がおこるのはなぜか</p> <p>第11回 地価負担力の相違による土地利用パターンの地域分化</p> <p>第12回 先進国の都市化要因と都市問題</p> <p>第13回 都市計画—田園都市とニュータウン</p> <p>第14回 インナーシティの再生</p> <p>第15回 まとめと課題</p>		
進め方	<p>講義と板書を中心とした授業になりますが、具体的な事例を取り上げ、わかりやすく説明します。受講するにあたって特別な知識は要りませんが、「都市」にまつわる日頃のニュースなどにも関心をもつようにして問題意識をもって臨んで下さい。</p>		
テキスト	<p>テキストは使用しません。ほぼ毎回、資料プリントを配布して授業を進めていきますので、十分に活用して下さい。</p>	参考文献	<p>小長谷一之著(2005)：『都市経済再生のまちづくり』（古今書院）</p> <p>宮尾尊弘著(1995)：『現代都市経済学』（日本評論）</p>
評価方法	出席:20% 作業課題などの平常点:30% 定期試験:50%		

マス・コミュニケーション論Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
ユビキタスとこれからの情報化社会		川村 受映 (かわむら じゅえい)	
ねらい	私達は今「インターネット」や「ブロードバンド」「モバイル通信」「ユビキタス」など、情報通信ネットワークと切り離せない社会に生きている。「情報化社会」とはどんな社会なのか、私たちの生活は以前とどのように変わり、これからどのような未来に向かっているのかを探求する。		
授業計画	【前期】 第1回 授業のオリエンテーション、これからの情報化社会 第2回 メディアの歴史 第3回 インターネット 第4回 モバイル通信 第5回 ブロードバンド 第6回 ユビキタス1 第7回 ユビキタス2 第8回 情報通信の未来 第9回 IT情報技術革命 第10回 世界のユビキタス事情 第11回 U-Japan政策 第12回 ネチケットについて 第13回 情報化社会と私達 第14回 ブログ 第15回 ブログ		
進め方	講義が中心。毎回授業中に「ミニレポート」を書く。ミニレポートは、その日の理解度を見るため。自らの意見を述べることを重視するので、受講者は主体的関心を持って臨んでほしい。主な意見や質問は次の講義で紹介し、皆と共有する。		
テキスト	特に定めない。	参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	授業中のミニレポート:50% 期末レポート:50%		

マス・コミュニケーション論Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
ユビキタスとオンライン・ジャーナリズム		川村 受映 (かわむら じゅえい)	
ねらい	世代や障害の有無を問わず、いつでも、どこでも、誰もが情報通信ネットワークを利用して社会に参加できるユビキタス時代。情報化を巡る社会環境は早いスピードで変わっている。既存のマスメディアだけでなく、一般人も情報発信が可能になった。この講座では、ユビキタス社会、オンライン・ジャーナリズム、などについて探求する。		
授業計画	【後期】 第1回 授業のオリエンテーション、これからの情報化社会 第2回 メディアの歴史 第3回 インターネット 第4回 モバイル通信 第5回 ブロードバンド 第6回 ユビキタス1 第7回 ユビキタス2 第8回 ユビキタス3 第9回 U-Japan政策 第10回 世界のIT事情 第11回 世界のユビキタス事情 第12回 オンライン・ジャーナリズム1 第13回 オンライン・ジャーナリズム2 第14回 ブログ1 第15回 ブログ2		
進め方	講義が中心。毎回授業中に「ミニレポート」を書く。ミニレポートは、その日の理解度を見るため。自らの意見を述べることを重視するので、受講者は主体的関心を持って臨んでほしい。主な意見や質問は次の講義で紹介し、皆と共有する。		
テキスト	特に定めない。	参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	授業中のミニレポート:50% 期末レポート:50%		

マス・コミュニケーション論Ⅲ		後期 2 単位	1・2・3年
マスコミの報道について考える		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
ねらい	国際報道、災害報道、犯罪報道、科学報道などの具体的事例を題材として、マスコミの報道の現状と問題点について検討する。特に、犯罪報道については、マスコミの報道姿勢と最近盛んに議論されている、取材や報道による人権侵害の問題を取り上げる。また、パニック、政治などに対するマスコミ報道の影響についても検討する。		
授業計画	【後期】 第1回 マス・コミュニケーションの特徴 第2回 ジャーナリズム—ニュースと報道 第3回 国際報道 (1) 第4回 国際報道 (2) 第5回 災害報道 (1) 第6回 災害報道 (2) 第7回 犯罪報道 (1) 第8回 犯罪報道 (2) 第9回 誤報 第10回 皇室報道 第11回 科学報道 第12回 マスコミの報道とパニック 第13回 マスコミの報道と政治 第14回 マスコミ報道の影響 第15回 試験		
進め方	講義による。		
テキスト	特になし。資料を適宜配布する。	参考文献	朝日新聞社会部編『被告席のメディア』（朝日新聞社） 梓澤和幸著『報道被害』（岩波新書） 河野義行著『「疑惑」は晴れようとも』（文春文庫）
評価方法	出席:15% 定期試験:85%		

女性学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
パートナーシップの女性学		柚木 理子 (ゆき まさこ)	
ねらい	日本の女性のおかれている状況を恋愛・結婚・家族・親子といったパートナーシップの観点から把握し、これらに見られる問題の諸相を捉え、社会制度との関連から考察していく。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 現代日本における問題の諸相 第3回 ジェンダーとは 第4回 ジェンダー規範と自己形成過程 第5回 家族を考える 第6回 女性のライフコースの変化 第7回 経済変動と結婚の変容 第8回 ジェンダーから考える結婚 第9回 恋愛再考:「モテル」ことの意味 第10回 親密性の中の暴力 第11回 デートDV 第12回 配偶者間の暴力 (DV) 第13回 親子間の暴力 第14回 新しいパートナーシップを求めて 第15回 試験		
進め方	統計資料並びに新聞雑誌等の資料を用いながら、女性のおかれている状況を人間関係に着目して考察していく。受動的な授業ではなく、各自の意見をミニペーパーにまとめ、また受講生との活発な意見交換を通じて、主体的に考える姿勢を養う。		
テキスト	授業時に適宜紹介する	参考文献	授業時に適宜紹介する
評価方法	出席/兼ミニペーパー:30% 試験:70%		

女性学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
女性が働くことを考える		柚木 理子 (ゆき まさこ)	
ねらい	現代日本において働く女性がおかれている状況を多面的に分析し、問題の諸相を明らかにしていく。ワークルールを身に付け、また就職活動の基礎知識としても役立ててもらいたい。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 現代日本における問題の諸相 第3回 世界の中の日本の女性 第4回 働く女性の法律：男女雇用機会均等法 第5回 貧困の女性化：ワーキングプア 第6回 女性の職業選択とキャリア形成 第7回 ジェンダー・ペイ・ギャップ 第8回 ワークルールを学ぼう 第9回 セクシュアル・ハラスメント 第10回 働く女性の歴史 1 第11回 働く女性の歴史 2 第12回 パート・派遣で働くこと 第13回 パートで働くこと 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	統計資料並びに映像資料を用いながら、働く女性のおかれている現状を世界との比較の中で考える。受動的な授業ではなく、各自の意見をミニペーパーにまとめ、主体的に考える姿勢を養う。受講生との活発な意見交換を望みます。		
テキスト	授業時に適宜配布する	参考文献	授業時に指摘する
評価方法	出席／兼ミニペーパー：30% 試験：70%		

女性学Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
性暴力と性の商品化		藤田 和美 (ふじた かずみ)	
ねらい	近代以降の女性解放運動から現代の女性学研究まで「女性学」という学問の成立の歴史的経緯とその成果を学び、現代の性をめぐる諸問題を検討する。特に、DV（ドメスティック・バイオレンス）やメディアにおける性表現や氾濫する性情報などを対象にして、性暴力について考え、女性の主体的な性と生のあり方を探っていきたい。		
授業計画	【前期】 第1回 性暴力とは 第2回 明治期の女性運動 第3回 青鞥の女性たち 第4回 産児調節運動 第5回 現代の女性をめぐる法、制度 第6回 教育・労働の中の性暴力ーセクシュアル・ハラスメントー① 第7回 " ② 第8回 ストーカー被害 第9回 痴漢・強姦被害 第10回 DVとは何か 第11回 DV被害者支援 第12回 DV加害者 第13回 現代の性表現 第14回 性の商品化と表現の自由をめぐって 第15回 これからの性と生		
進め方	講義を中心とするが、ビデオなど視聴覚教材も用いる。毎回授業時には感想を書いて提出してもらう。		
テキスト	特に定めない。随時、資料をプリントして配布する。	参考文献	講義開始時に文献リストを配布する。
評価方法	レポート：50% 感想文：50%		

女性学Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
女性と表現		藤田 和美 (ふじた かずみ)	
ねらい	芸術表現の領域において、女性の数は男性に比べて圧倒的に少なく、作品そのものも主流である男性の傍流として「女流」という位置付けがされることが少なくない。当時活躍していながら、芸術史に名をとどめていない女性芸術家の作品も含めて、多ジャンルにまたがる女性芸術家の作品を鑑賞する。今年度は特に女性表現における笑いについて考		
授業計画	【後期】 第1回 女性表現における笑いとは 第2回 シンデレラ～変遷する女性像～ 第3回 闘う女性たち 第4回 新しい女性像の創造 第5回 文学における笑い① 第6回 " ② 第7回 現代アートにおける笑い 第8回 お笑いと言性 第9回 落語と笑い 第10回 女性視点の笑いとは 第11回 笑いと言性 第12回 女性コメディ映画① 第13回 " ② 第14回 流行歌と笑い 第15回 少女コミックとトランス・ジェンダー		
進め方	講義を中心とするが、毎回作品鑑賞をするためOHP・ビデオなど視聴覚教材を用いる。また、授業でとりあげた作品に対して、自分なりの意見、感想を毎回授業時に書いて提出してもらう。		
テキスト	特に定めない。随時、資料をプリントして配布する。	参考文献	講義開始時に文献リストを配布する。
評価方法	レポート:50% 感想文:50%		

幼児教育		前期 2 単位	1・2年
幼児期の発達と教育		志賀 智江 (しが ともえ)	
ねらい	幼児期は、人間として成長発達する上で大切な基礎段階です。 この科目は、子ども学科を除く全学科の学生が、幼児の教育や子どもの諸問題に広く関心を持ち、子どもとその周辺の問題を多面的に考えていくことをねらいとして開講されているものです。		
授業計画	【前期】 第1回 幼児教育における問題点とその要因 第2回 日本の子どもをとりまく環境 第3回 乳児期の発達と周囲のかかわり 第4回 幼児期の発達と周囲のかかわり 第5回 幼児教育の制度と保育施設の現況 第6回 保育ニーズと子育て支援、現況と今後の課題 第7回 子どもと家族・家庭教育 第8回 幼児の保健・栄養・安全 第9回 世界の子どもの現状と課題 第10回 子どもとジェンダー 第11回 子ども虐待 第12回 子どもの表現活動 第13回 幼児教育の歴史 第14回 幼児教育における問題と今後の課題 第15回 定期試験		
進め方	講義を中心としますが、テーマによっては、ゼミ形式で進めたいと思います。内容に応じて、VTR・資料を用います。		
テキスト	志賀智江著『幼児教育』梓出版社	参考文献	授業の中で随時紹介します。
評価方法	平常点:50% 定期試験:50%		

幼児教育		後期 2 単位	1・2年
幼児期の発達と教育		志賀 智江 (しが ともえ)	
ねらい	<p>幼児期は、人間として成長発達する上で大切な基礎段階です。 この科目は、子ども学科を除く全学科の学生が、幼児の教育や子どもの諸問題に広く関心を持ち、子どもとその周辺の問題を多面的に考えていくことをねらいとして開講されているものです。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 幼児教育における問題点とその要因 第2回 日本の子どもをとりまく環境 第3回 乳児期の発達と周囲のかかわり 第4回 幼児期の発達と周囲のかかわり 第5回 幼児教育の制度と保育施設の現況 第6回 保育ニーズと子育て支援、現況と今後の課題 第7回 子どもと家族・家庭教育 第8回 幼児の保健・栄養・安全 第9回 世界の子どもの現状と課題 第10回 子どもとジェンダー 第11回 子ども虐待 第12回 子どもの表現活動 第13回 幼児教育の歴史 第14回 幼児教育における問題と今後の課題 第15回 定期試験</p>		
進め方	講義を中心としますが、テーマによっては、ゼミ形式で進めたいと思います。内容に応じて、VTR・資料を用います。		
テキスト	志賀智江著『幼児教育』梓出版社	参考文献	授業の中で随時紹介します。
評価方法	平常点:50% 定期試験:50%		

社会福祉概論		前期 2 単位	1・2・3年
社会福祉概論		笹岡 眞弓 (ささおか まゆみ)	
ねらい	<p>福祉は「ふつうのくらしのしあわせ」を意味する。普通とは何か、暮らしの構成要素は何か、幸せとは主観的なものを指しているのか？こうした疑問に学生一人一人が、自分の解答がもてるよう学習を深める。さらに福祉の阻害要因について、社会保障のあり方を含め概説する。加えて社会福祉制度と人びとを結ぶ、ソーシャルワークについても理解を深</p>		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 慈善から社会事業を経て社会福祉へ、歴史を知る 第3回 少子高齢社会・格差社会・生老病死と生活 第4回 福祉の理念；ノーマライゼーション 第5回 ソーシャルインクルージョン 第6回 生活保護制度の概略 第7回 社会保障制度の概略 第8回 高齢者の福祉 第9回 障害者の福祉 第10回 児童の福祉 第11回 保健医療分野の福祉 第12回 社会福祉専門職のあり方（ソーシャルワーカー） 第13回 エンパワーメント 第14回 世界の中の日本。クライアントは地球の市民 第15回 試験</p>		
進め方	講義は出来るだけ現代の事例を用い、考察を深める。毎回新聞の記事を社会福祉の視点から解説できるように努める。学生からの質問時間を設け議論の時間を設ける。積極的な発言を歓迎する。		
テキスト	棕野美智子著『はじめての社会保障』有斐閣新書	参考文献	追って指定する
評価方法	試験:40% レポート:30% 出席:30%		

国際協力 I		前期 2 単位	1・2・3年
国際協力論入門		関谷 雄一（せきや ゆういち）	
ねらい	国際協力II履修希望者のための事前学習講座。国際協力、開発援助に係る基礎的な知識を学習し、夏期JICAインターンシップ・プログラムに参加できる基礎力を養う。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨソ：国際協力とは何か？ 第2回 国際協力の歴史I（1945年以前） 第3回 国際協力の歴史II（1945-1960） 第4回 国際協力の歴史III（1960-1980） 第5回 国際協力の歴史IV（1980-2000） 第6回 開発主義および経済発展論 第7回 BHNと草の根の活動 第8回 構造調整政策 第9回 グローバルイシュー（地球環境問題） 第10回 グローバルイシュー（開発と女性） 第11回 グローバルイシュー（難民問題） 第12回 人間の安全保障 第13回 開発における人材育成 第14回 日本のODAと国際協力 第15回 国際協力の課題		
進め方	注意事項：本科目は国際協力IIとセットになっている人数制限科目である。年度初頭時に実施される人数制限科目履修登録説明会に必ず出席し、履修の仕方・諸注意を聞くこと。基本的に講義が中心。機会があればJICA広尾地球ひろばの見学を実施する。交通費等は自己負担とする。		
テキスト	適宜紹介する。なお、講義は基本的にプリントを配り実施する。	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	出席点：30% 期末レポート：70%		

国際協力 II		後期集中 2 単位	1・2・3年
JICA筑波インターンシップ・プログラム		関谷 雄一（せきや ゆういち）	
ねらい	独立行政法人国際協力機構（JICA）筑波国際センターにおける夏期インターンシップ・プログラムに参加して、国際協力と開発援助に関わる実践的学習を行う。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 事前研修会 第3回 第一日 午前 JICA概要説明 第4回 第一日 午後 貧困削減（講義） 第5回 第二日 午前 貧困削減（ワークショップ） 第6回 第二日 午後 環境（講義） 第7回 第三日 午前 教育（講義） 第8回 第三日 午後 キヤンテイイェロップメント（講義） 第9回 第四日 午前 農村農業開発（講義） 第10回 第四日 午後 研修員ディスカッション 第11回 第五日 午前 ワークショップ①（問題分析） 第12回 第五日 午後 ワークショップ②（計画作成） 第13回 第六日 午前 パネルディスカッション 第14回 第六日 午後 評価ワークショップ 第15回 報告会		
進め方	注意事項：本科目は国際協力Iを履修し単位を取得した者のみ履修可。国際協力Iの履修状況により、前期末の段階で履修許可を取り消す場合もあり。人数制限科目登録時の説明会に必ず参加し、履修上の注意を聞くこと。JICA筑波による合同説明会は、JICA広尾の地球ひろばで前期中に実施されるが、それには必ず出席すること（日時等未定）。本科目の		
テキスト	プログラムの中で適宜紹介する。	参考文献	プログラムの中で適宜紹介する。
評価方法	JICA筑波の評価：90% 短大へのレポート：10%		

自然科学概論Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
科学の社会史・文化史		河野 俊哉 (こうの としや)	
ねらい	「科学」とは何かについて、歴史的に考察します。その際、高校までの「科学」が、主に理論を中心に学んでいたのに対し、本講義では、科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。良い意味で皆さんの科学観が変わることを願っています。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第2回 「科学」の誕生：「歴史観」について説明します。 第3回 「古代ギリシャの自然観」について説明します。 第4回 「錬金術と絵画」について概観してみましょう。 第5回 「12世紀ルネサンス」と「大学の誕生」 第6回 「ルネサンスから近代科学へ」～そして『薔薇の名前』 第7回 「科学革命論」再考Ⅰ：概略とその問題点を考察します。 第8回 「科学革命論」再考Ⅱ：中国の科学と西洋中心主義 第9回 「科学革命論」再考Ⅲ：魔術的自然観と機械論的自然観 第10回 「科学革命論」再考Ⅳ：「化学革命」の検討 第11回 「酸素の発見」と「パラダイム論」 第12回 産業革命期の自然研究者と「聖俗革命」 第13回 「科学コミュニケーション」入門：概略とその検討 第14回 本講義のまとめ：「教養教育」とは何か？ 第15回 試験		
進め方	講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、授業時に小レポートを課すなりして、双方向の授業を目指します。細かな科学知識は必要としませんが、各自の関心分野（英文学、芸術、教育等）から積極的に「科学」との関連を模索して下さい。		
テキスト	プリントを適宜配布します。	参考文献	古川安『科学の社会史[増訂版]』（南窓社、2000年） 井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000年）
評価方法	出席（小レポート）：40% 授業外レポート：30% 試験：30%		

自然科学概論Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
テーマ別・科学論		河野 俊哉 (こうの としや)	
ねらい	「科学」と関連するテーマを科学論的観点から考察し、「科学」に対する理解を深めることを目的とします。前半は、科学史的観点から、そして最終的には現代における科学・技術の諸問題を科学技術社会論的観点から考察します。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第2回 ダーウィンと進化論：概要と衝撃について説明します。 第3回 社会ダーウィニズム：概要と問題点について説明します。 第4回 「日本における進化論の受容」について説明します。 第5回 「科学とイギリス文学」に関する研究を概観します。 第6回 ダーウィニズムとウエルズ：『タイムマシン』を考察。 第7回 『フランケンシュタイン』を科学史的に考察しましょう。 第8回 「絵画と科学」：フェルメール等を例に考察しましょう。 第9回 レイチェル・カーソン：科学・文学・環境 第10回 戦争と科学：フリッツ・ハーバーの生涯と業績 第11回 日本人と近代科学～『長州ファイブ』について 第12回 環境学入門：地球温暖化、遺伝子組み換え作物等。 第13回 「理科離れ」と科学コミュニケーション 第14回 本講義のまとめ：「教養教育」の再構築について 第15回 試験		
進め方	講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、授業時に小レポートを課すなりして、双方向の授業を目指します。細かな科学知識は必要としませんが、各自の関心分野（英文学、芸術、教育等）から積極的に「科学」との関連を模索して下さい。		
テキスト	プリントを適宜配布します。	参考文献	井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000年） 藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』（東大出版
評価方法	出席（小レポート）：40% 授業外レポート：30% 試験：30%		

自然科学概論Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
技術と科学の社会史		隠岐 さや香 (おき さやか)	
ねらい	西洋の近代自然科学は技術を通じて人々の世界観や生活様式に大きな変化をもたらした。本講義では歴史的事件や身近な技術の例を通じて、科学と結びついた技術が人々の認識や社会のあり方にどのような影響を与えてきたのかを考えた		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン-科学・技術と認識 第2回 刷術と宗教、科学 第3回 時計と航海術 第4回 地図作成術と天文学 第5回 西洋そろばんから計算機まで 第6回 自動機械—オートマタ、ロボット 第7回 技術と17世紀の「科学革命」 第8回 軍事技術と科学 数学化と標準化 第9回 産業技術と科学 (1) 製鉄と蒸気機関 第10回 産業技術と科学 (2) 電気 第11回 原子力と社会 第12回 バイオテクノロジーと社会 (1) 臓器移植 第13回 バイオテクノロジーと社会 (2) 生殖医療 第14回 脳科学の技術的応用と脳神経倫理 第15回 現代の科学・技術と社会		
進め方	自然科学や技術の知識は前提とせず、文系の学生にわかるよう講義を行います。適宜、視聴覚教材を用います。		
テキスト	プリントを使用します。	参考文献	授業時に紹介します。
評価方法	出席:30% レポート:70%		

自然科学概論Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
科学の社会史-女性・男性と近代科学-		隠岐 さや香 (おき さやか)	
ねらい	科学の歴史は政治体制、身分制度、性差の問題など、時代ごとの社会のあり方と無関係ではなかった。本講義では科学において女性が果たした役割や、科学が女性、男性それぞれのイメージに与えた影響を取り扱う。それにより、現代社会と科学の関係をよりよく理解することを目指す。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン: 生物学的な性とジェンダー、科学・技術 第2回 ルネサンス期以前の男性観・女性観と科学・技術的な仕事 第3回 16-17世紀における自然科学と魔術、女性、男性 第4回 医療、工芸における女性職人達と科学的知識 第5回 貴婦人によるサロン文化と科学 (17-18世紀) -エミリー・デュ・シャトレとニュートン力学 第6回 ラヴォワジエ夫人と化学革命-男性科学者の地位上昇 第7回 医療における男性医師の進出 (16-18世紀) 第8回 啓蒙思想と母性神話 第9回 男性科学者と「天才」神話の形成 (1750-1850) 第10回 生物学と性差の言説 ダーヴィンの進化論 第11回 19-20世紀の数学と女性: ソフィー・ジェルマンからエミー・ネーターまで 第12回 マリー・キュリーの「成功」を考える 第13回 リーゼ・マイトナーと核物理学 第14回 ノーベル賞と女性科学者、男性科学者 第15回 現代社会におけるジェンダーと科学		
進め方	講義形式で行います。コメントペーパーで意見や質問を募集し、可能な限り対話的な授業にしたいと思ひます。		
テキスト	プリントを使用します。	参考文献	授業時に紹介します。
評価方法	出席:20% コメントペーパー:20% レポート:60%		

自然科学概論V		前期 2 単位	1・2・3年
近代日本の科学技術		小山 俊士 (こやま しゅんし)	
ねらい	19世紀に西欧諸国は世界中へ進出したが、その背景には優れた科学技術があった。その進出に直面したアジア諸国はそれぞれ科学技術の受容に努めたが、その中で最初に成功したのが日本である。日本が科学技術を受け入れていく過程を通じて、自然科学の特徴および社会との関係を理解することをめざす。		
授業計画	【前期】 第1回 日本の伝統科学と文明開化 第2回 蘭学と洋学 第3回 岩倉遣欧使節団と留学生 第4回 お雇い外国人と工部大学校・工学部 第5回 東京数学会社から東京数学物理学会へ 第6回 帝国大学理科大学：菊池大麓と山川健次郎 第7回 最先端の科学へ：長岡半太郎と高木貞治 第8回 帝国大学の拡大：京都、東北 第9回 殖産興業、産業革命と科学技術 第10回 第一次世界大戦と理化学研究所 第11回 素粒子物理学：湯川秀樹と朝永振一郎 第12回 植民地と科学 第13回 アジア太平洋戦争と科学動員 第14回 高度経済成長と公害 第15回 期末試験		
進め方	講義を中心とする。テーマについての調査、配付資料についてのディスカッションを求めることもある。		
テキスト	特に定めない。毎回の講義で資料を配付する。	参考文献	講義で扱うテーマを全般的に紹介したものとして、広重徹『科学の社会史 上・下』岩波現代文庫、中岡哲郎『日本近代技術の形成』朝日選書が参考になる。
評価方法	出席と授業態度:50% 期末試験:50%		

自然科学概論VI		後期 2 単位	1・2・3年
実験と機器から見る自然科学		小山 俊士 (こやま しゅんし)	
ねらい	ふつうの自然科学の教科書は、その理論にもとづいて構成されている。しかし、科学の歴史の大半は、自然の観測や実験によって作られてきた。この講義では実験やそのための機器に注目して、自然科学の特徴を捉えることを目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 総論：科学の理論と実験 第2回 ガリレオの落下実験 第3回 ボイルと空気ポンプ 第4回 望遠鏡と天文学 第5回 蒸気機関、産業革命と熱力学 第6回 ファラデーと公開実験 第7回 組織的な実験：リービッヒと有機化学 第8回 電磁波と無線通信 第9回 原子の構造：X線の発見から核分裂まで 第10回 量子力学とエレクトロニクス 第11回 巨大科学の時代へ：加速器 第12回 電子顕微鏡、分光学とDNA 第13回 コンピュータによるシミュレーション 第14回 実験機器と測定装置：加速器と霧箱、泡箱 第15回 試験		
進め方	講義を中心とする。講義のテーマに関する調査を求めることもある。		
テキスト	指定しない。講義で資料を配付する。	参考文献	講義の全体でベアード『物のかたちをした知識』青土社を参考とするが、毎回の講義でも参考文献を紹介する。
評価方法	出席と授業態度:50% 試験:50%		

自然科学概論Ⅶ		前期 2 単位	1・2・3年
環境科学への招待－環境問題を学際的に考える－		内山 弘美（うちやま ひろみ）	
ねらい	環境科学は、持続可能な社会の構築を目指し、自然科学・人文科学・社会科学を融合した学際的な学問分野です。本講義では、環境問題の解決には、様々な学問分野の協力が必要であることを学び、環境に対するホーリスティックなものの方見方を修得することを目的とします。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨN-環境科学とは何か？- 第2回 世界の環境問題の歴史- 20世紀後半の欧米を中心に1- 第3回 世界の環境問題の歴史- 20世紀後半の欧米を中心に2- 第4回 日本の環境問題の歴史-公害と政府・自治体・科学者- 第5回 環境科学の研究と教育-学際性をめざして- 第6回 地球環境時代の環境科学 第7回 地球温暖化 第8回 グループ・ディスカシヨN 第9回 GISと環境情報 第10回 国際機関の取り組み 第11回 事前学習（環境関連施設の見学） 第12回 環境関連施設の見学 第13回 事後学習（環境関連施設の見学） 第14回 青山エコ・キャンパス 第15回 試験		
進め方	自然科学の知識は前提とせず、文系の学生にもわかるように講義を行ないます。適宜、視聴覚教材を用います。グループ・ディスカシヨNなどの参加型学習を導入します。受講人数によっては、大学周辺の環境関連施設の見学も行う予定です。		
テキスト	基本的に、プリントを配布します。	参考文献	河村武他『環境科学Ⅰ』『環境科学Ⅱ』『環境科学Ⅲ』朝倉書店、近藤次郎『環境科学読本』東洋経済新報社、環境省『環境白書』、その他随時指示しま
評価方法	出席及び授業への参加：60% レポートまたは試験：40%		

自然科学概論Ⅷ		後期 2 単位	1・2・3年
環境史の可能性－過去・現在・未来－		内山 弘美（うちやま ひろみ）	
ねらい	環境問題は、人間活動の結果として生じ、私たちの未来に重くのしかかっています。この問題を解決するためには、まず歴史を紐解くことが必要です。本講義では、環境にかかわる歴史的なトピックを学ぶことにより、現在私たちが直面している環境問題にどのように対処したら良いかを考えることを目的とします。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 環境史への招待 第2回 アメリカの自然環境史 第3回 沼田眞の環境思想－環境科学・自然保護とその教育- 第4回 森林の保全 第5回 環境倫理 第6回 環境問題と科学技術者の社会的責任 1 第7回 環境問題と科学技術者の社会的責任 2 第8回 グループ・ディスカシヨN 第9回 環境に対する国際機関の取り組み 第10回 事前学習（環境関連施設の見学） 第11回 環境関連施設の見学 第12回 事後学習（環境関連施設の見学） 第13回 環境問題とS T S（科学・技術・社会論） 第14回 持続可能な発展 第15回 試験		
進め方	自然科学の知識は前提とせず、文系の学生にもわかるように講義を行ないます。適宜、視聴覚教材を用います。グループ・ディスカシヨNなどの参加型学習を導入します。受講人数によっては、大学周辺の環境関連施設の見学も行ないます。		
テキスト	基本的に、プリントを配布します。	参考文献	随時、指示します。
評価方法	出席及び授業への参加：60% レポートまたは試験：40%		

統計学 I		前期 2 単位	1・2・3年
統計的方法の紹介、記述統計		本郷 茂（ほんごう しげる）	
ねらい	統計的情報を正しく把握するには、統計的手法について理解しておくことが必要である。統計学 I では、統計的手法を学ぶ上での初歩的な知識を身につけてもらうことを目標とする。		
授業計画	【前期】 第 1回 統計的方法について 第 2回 データの分類、グラフによる表示 第 3回 " 第 4回 データの平均、中央値、最頻値 第 5回 " 第 6回 データの標準偏差、分散 第 7回 " 第 8回 相関係数 第 9回 " 第 10回 統計と確率 第 11回 " 第 12回 正規分布 第 13回 " 第 14回 統計学 I のまとめと演習 第 15回 前期試験		
進め方	講義が中心となるが、毎回の講義内容の理解が重要となるため、各自の修得状況を確認する目的で授業中に数回小テストを行う。授業中に電卓（平方根（ $\sqrt{\quad}$ ）機能付き）を使用するため、毎回持参すること。毎回、授業中に計算課題など行うため、毎回の出席が重要である。期末試験を行うが、他に平常点（授業中の小テスト）、出席点を加味して評価す		
テキスト	第 1 回目の授業時に指示する。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	期末試験の評価 約:60% 授業中の小テスト等（平常点） 約:25% 毎回の出席等（出席点） 約:15%		

統計学 II		後期 2 単位	1・2・3年
確率分布、標本分布、推測統計		本郷 茂（ほんごう しげる）	
ねらい	統計学 II では、統計学の数学的理論体系に深入りすることを避け、応用的な立場から、演習問題を各自解くことを通して、統計学の基本的な概念や手法を修得することを目的とする。		
授業計画	【後期】 第 1回 確率と確率変数 第 2回 " 第 3回 確率変数の期待値 第 4回 " 第 5回 主要な確率分布 第 6回 " 第 7回 標本抽出 第 8回 " 第 9回 統計的推定 第 10回 " 第 11回 統計的検定 第 12回 " 第 13回 回帰分析 第 14回 統計学 II のまとめと演習 第 15回 後期試験		
進め方	統計学 I で身につけた統計学の初歩的な知識を前提にして講義を進めていく。統計学 I 同様に講義が中心となるが、各自の修得状況を確認する目的で授業中に小テストを行う。授業中に電卓（平方根（ $\sqrt{\quad}$ ）機能付き）を使用。授業中に計算課題など行うため、出席が重要である。期末試験を行うが、他に平常点（授業中の小テスト）、出席点を加味して評		
テキスト	第 1 回目の授業時に指示する。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	期末試験 約:60% 授業中の小テスト等（平常点） 約:25% 毎回の出席等（出席点） 約:15%		

数学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
一筆書き／魔方陣		宮田 雅智（みやた まさのり）	
ねらい	高校の「数学Ⅰ」程度の知識を基礎に、「一筆書き」「魔方陣」を題材にして数学を学びます。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 ケーニヒスベルグの橋渡し 第3回 グラフの定義、次数、偶点と奇点 第4回 グラフの特徴、数学的帰納法 第5回 一筆書きの条件 第6回 イリテーションパズルと彩色グラフ 第7回 順列グラフと有向グラフ 第8回 重畳彩色グラフ 第9回 魔方陣の定義 第10回 色々な魔方陣 第11回 自然方陣と魔方陣（1） 第12回 自然方陣と魔方陣（2） 第13回 汎魔方陣の作成 第14回 汎魔方陣の条件 第15回 汎魔方陣の作成		
進め方	2つのテーマ（一筆書き、魔方陣）をとりあげ、各テーマは数回の授業で完結するように進めていきます。一方的に講義を聞くだけでなく、演習通して、問題の本質がどこにあるかを考え、その意味を明らかにし、数学の面白さを体験したいと思います。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布します。	参考文献	『教養の数学』柴岡泰光著、『はじめてであらうすがくの絵本1, 2, 3』安野光雅著
評価方法	レポート:60% 平常点:40%		

数学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
二進法／素数		宮田 雅智（みやた まさのり）	
ねらい	高校の「数学Ⅰ」程度の知識を基礎に、「二進法」「素数」を題材にして数学を学びます。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 二進法 第3回 二進法と十進法 第4回 倍加法と逆倍加法 第5回 二進数の演算 第6回 数当てゲーム 第7回 二進カードの分類 第8回 情報のデジタル化 第9回 エラトステネスのふるい 第10回 素数は無限にあるか 第11回 素因数分解の一意性 第12回 約数の和 第13回 完全数 第14回 メルセンヌ数とユークリッド型完全数 第15回 素数と暗号		
進め方	2つのテーマ（二進数、素数）をとりあげ、各テーマは数回の授業で完結するように進めていきます。一方的に講義を聞くだけでなく、演習通して、問題の本質がどこにあるかを考え、その意味を明らかにし、数学の面白さを体験したいと思います。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布します。	参考文献	『教養の数学』柴岡泰光著
評価方法	レポート:60% 平常点:40%		

生物学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
植物のかたちと分類		若林 三千男 (わかばやし みちお)	
ねらい	有史以前から人間は植物の多様なかたちを認識して身の回りの種類を見分け、農業や医学をはじめさまざまな文明を発達させてきた。この講義では、主に被子植物のかたちやそのはたらきについて学び、これを通して、地球上の環境や人間生活にとって植物がいかに欠かせぬ存在であるか理解を深める。		
授業計画	【前期】 第1回 植物とわたしたち 第2回 陸上植物を構成するグループと生活史 第3回 植物の分類と学名Ⅰ 第4回 植物の細胞・組織とからだの特徴(1) 第5回 植物の細胞・組織とからだの特徴(2) 第6回 シュート系：茎と葉 第7回 シュート系：成長様式 第8回 根の基本的構造とはたらき 第9回 花の基本的構造と成り立ち(1) 第10回 花の基本的構造と成り立ち(2) 第11回 花序のいろいろと送粉様式 第12回 花から果実へ―生殖様式の進化 第13回 花から果実へ―果実のいろいろ 第14回 種子と種子の芽生え 第15回 試験		
進め方	講義を中心とするが、プロジェクターを利用して要点を視覚的に把握できるように進める。		
テキスト	特に定めない。配布資料を活用する。	参考文献	原 襄 著「植物の形態」裳華房
評価方法	出席:30% 定期試験:70%		

生物学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
生物の普遍性と多様性		若林 三千男 (わかばやし みちお)	
ねらい	生命体は、本質的に共通の原理(細胞を基本単位とし、代謝と遺伝を基本機能とする)をもった物質系であること、そして多様な生物現象が、進化を基盤として出現・展開しているということを理解する基礎を身につける。		
授業計画	【後期】 第1回 生物の特質 第2回 生を演出する物質 第3回 細胞の構造 第4回 同化と異化：エネルギーの獲得と利用 第5回 呼吸によるATP合成 第6回 光合成によるATP合成 第7回 光合成による二酸化炭素同化 第8回 細胞の分裂 第9回 DNAの複製 第10回 遺伝情報の発現：転写 第11回 遺伝情報の発現：翻訳 第12回 生物の多様性と分類(1) 第13回 生物の多様性と分類(2) 第14回 進化と系統 第15回 試験		
進め方	講義を中心とするが、プロジェクターを利用して要点を視覚的に把握できるように進める。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配付する。	参考文献	石川 統 著「生物学入門」東京化学同人
評価方法	出席:30% 定期試験:70%		

環境科学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
地球環境問題の現状を知り解決策を考える		本波 裕美 (ほんなみ ひろみ)	
ねらい	授業のねらいは①現在世界が直面している環境問題の現状を知る。②どうしてそのような問題が生じたのかを探り、解決策を考える。授業のレベルは新聞・テレビ・一般書で紹介されている環境用語を理解できるようになることを目標とする。またエコとはどのようなことなのかを学ぶ。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス、環境問題とは何か 第2回 地球環境の現状 第3回 地球温暖化とは何か 第4回 温暖化の要因 第5回 温暖化対策を考える 第6回 オゾン層の破壊、オゾン層の役割り 第7回 生き物のつながり、生物濃縮、エクセルギー 第8回 酸性雨 第9回 バイオテクノロジーと環境問題 第10回 生命操作 第11回 遺伝子組換え農作物の現状 第12回 BSE(いわゆる狂牛病) 第13回 世界の水問題 第14回 都市化と環境問題 第15回 まとめ		
進め方	毎回配布プリントを資料とし、プリントの解説を中心に講義形式で進める。毎回提起された設問に対し、自ら考え、授業のテーマを理解し深めることを重視する。環境問題の現状や対策に関する情報は新聞、書籍、映像、展示などからも得ることができる。それらも参考にし、自然環境および生活環境の変化に関心をもつよう心掛けて欲しい。		
テキスト	特に定めない。配布プリントを活用する。	参考文献	講義で随時紹介する。
評価方法	毎回の設問回答の評価:50% レポート:50%		

環境科学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
身近な製品から発生する化学物質と健康被害		本波 裕美 (ほんなみ ひろみ)	
ねらい	現在、豊かさと便利な生活を求めて多くの製品が作られ利用されている。資源開発、商品製造、使用、廃棄の段階で多くの有害物質が発生する。それらは環境中に長期間にわたって蓄積され、生態系や健康に影響を与えることが問題とされるようになった。授業では日常生活に関わる製品から発生する化学物質と実際に生じた健康被害を紹介し、対策を考		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 環境汚染と健康被害—現代の特徴 第2回 放射線の利用と問題Ⅰ 第3回 放射線の利用と問題Ⅱ 第4回 放射線の利用と問題Ⅲ 第5回 安全とは、基準値・許容量・認定とは 第6回 アスベスト 第7回 水銀の利用と健康被害 第8回 鉛の利用と健康被害 第9回 カドミウムの利用と健康被害 第10回 地下水の汚染 第11回 家庭の中の有害物質Ⅰ 第12回 家庭の中の有害物質Ⅱ 第13回 家庭の中の有害物質Ⅲ 第14回 シックハウス、化学物質過敏症 第15回 まとめ		
進め方	毎回配布プリントを資料とし、プリントの解説を中心に講義形式で進める。毎回提起された設問に対し、自ら考え、授業のテーマを理解し深めることを重視する。自分が日常使っている製品にどんな化学物質が含まれており、どんな健康被害をもたらすのか、できるだけ関心を持つよう心掛けて欲しい。		
テキスト	特に定めない。配付プリントを活用する。	参考文献	講義で随時紹介する。
評価方法	毎回の設問の回答評価:50% レポート:50%		

生活科学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
日常生活と科学		梅澤 香代子（うめざわ かよこ）	
ねらい	私たちの豊かな日常生活は科学の発展に支えられている。しかしながら、科学の基礎については必ずしも十分に理解されているとはいいがたい。本科目において、科学特に化学における最も基礎的なこと、その応用と日常生活とのかわりについて、明暗双方の側から学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 虹はどうして七色に見えるのか（電磁波） 第2回 電磁波を使って身体の中を見る（1） 第3回 電磁波を使って身体の中を見る（2） 第4回 原子 第5回 原子の色を見る 第6回 大気について（1） 第7回 大気について（2） 第8回 水（1） 第9回 水（2） 第10回 原子力 第11回 プラスチックとポリマー（1） 第12回 プラスチックとポリマー（2） 第13回 環境・資源・エネルギーの化学（1） 化学物質とは？ 第14回 環境・資源・エネルギーの化学（2） 地球温暖化 第15回 試験		
進め方	テキストは使用しないその代り資料を配布する。時によりビデオ、OHPなど使う。時に実験を行う。毎回小テストを課す。		
テキスト		参考文献	
評価方法	授業後の小テスト:20% 試験またはレポート:80%		

生活科学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
科学と生命活動		梅澤 香代子（うめざわ かよこ）	
ねらい	私たちの生命活動や遺伝の仕組みなどは科学の言葉で記述できます。それらを学ぶことにより、私たちの日常生活について考えます。		
授業計画	【後期】 第1回 化学の基礎 第2回 化学の基礎 第3回 化学の基礎 第4回 物の溶け方 第5回 食品の酸性、アルカリ性 第6回 アミノ酸とタンパク質 第7回 炭水化物 第8回 脂肪 第9回 消化 第10回 DNA 水素結合 第11回 DNAと遺伝 第12回 薬 第13回 食品添加物 第14回 いわゆるドラッグについて 第15回 試験		
進め方	テキストは使用しないその代り資料を配布する。時によりビデオ、OHPなど使う。時に実験を行う。毎回小テストを課す。		
テキスト		参考文献	
評価方法	出席（小テストの結果も含まます）:20% 試験またはレポート:80%		

生活科学Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
水と生活		山田 裕子（やまだ ひろこ）	
ねらい	水は生命の維持や、様々な生活活動をする上で欠かすことのできない物質である。水は私たちの周囲にもっとも豊富にある液体で、その性質はごく一般的な液体のように思えるが、単純な構造の割に、特殊な性質を持つ。それ故に、生命の営みや生活活動に役立っているといえる。本講では、この不思議な水の性質、生活用水としての水について考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 I. 水の性質 1) 水の歴史と地球上の水①地球誕生と水 第2回 ②古代の人たちの水感③地球上の水 第3回 2) 水分子の構造 3) 水の三態変化 第4回 4) 表面張力 第5回 5) 水の化学作用 6) 水の溶解力 第6回 II. 飲料水の水質と浄化システム 1) 生活用水の現状 第7回 2) 水道水の水質基準 3) おいしい水の条件 第8回 4) 浄水システムー飲み水を作る 第9回 5) 買水・ミネラルウォーター 6) 水と料理 第10回 III. 生活排水と浄化 1) 水質汚濁とは何か 第11回 2) 生活排水と水の汚れ 3) 水とトイレ 第12回 4) 下水処理水のリサイクル 第13回 5) 自然界の大きな過装置 第14回 IV. 生体と水 1) 水と人体 2) からだが求める水 第15回 テスト		
進め方	講義を中心に進める。受講生が少ない場合には簡単な実験も組み入れる。		
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	伊勢村壽三「水の話」（培風館）
評価方法	定期試験:80% 出席点:20%		

生活科学Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
水をめぐる身近な現象の化学		山田 裕子（やまだ ひろこ）	
ねらい	私たちは水とかかわりながら一日の生活を始める。顔を洗う、歯を磨く、これらは顔や歯を水に濡らすことでもある。さらに潜在や歯磨き剤を使って顔や歯の表面の汚れを水に移して洗浄する。このように身近な生活の中の、水にかかわる様々な現象に目を向け、考えてみよう。化学が身近になって、おもしろさを感じてほしい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 I. 序 1) 水とは 2) 水の特徴 第2回 3) 身近な水 第3回 II. ぬれの現象 1) ぬれとは 2) ぬれのタイプ 第4回 3) 接触角 第5回 4) ぬれと接触角ヒステリシス 第6回 5) ぬれの調節・きれいな固体面 6) ぬれと曇り 第7回 III. 水と油を混ぜる 1) 水と油は混じりにくい？ 第8回 2) エマルションの形態 3) 界面活性剤の働き 第9回 IV. 洗う 1) 水と洗濯 第10回 2) 洗剤とは 第11回 3) 洗浄力を評価する 4) 規格化されている洗浄力試験 第12回 5) 洗濯の対象となる汚れ 6) 洗濯の条件 第13回 続・洗濯の条件 第14回 7) 家庭洗濯の検証 8) 界面活性剤の生分解性 第15回 テスト		
進め方	講義を中心に進める。		
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	中西茂子・阿部幸子ほか著「被服整理学」（朝倉書店） 北原文雄著「コロイドの話」（培風館） 阿部幸子編著「洗濯と洗剤の化学」（放送大学教育振
評価方法	小テスト:30% 定期試験:50% 出席点:20%		

情報科学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
情報技術と社会の関わりを知る		島崎 みどり (しまざき みどり)	
ねらい	本授業ではコンピュータについて、その基本的な仕組みと問題点を理解することを目標とします。人間がなぜ、どのようにコンピュータやソフトウェアを作ったのか(必要性)、現在どのような悪い側面があるのか(問題点)、今後どのように発展してゆくのか(将来性)について社会との関わりも含めて学びます。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 コンピュータ概要、ユビキタス社会 第3回 ユビキタスを支える技術: ICタグ 第4回 計算機の発達 I 第5回 計算機の発達 II 第6回 コンピュータの仕組み (基本の仕組み) 第7回 コンピュータの仕組み (数値、基数と変換) 第8回 コンピュータの仕組み (論理演算、ソフトウェア) 第9回 プログラミングと言語 第10回 コンピュータの利用 第11回 技術の進歩と現状 第12回 特別講義 第13回 発表I 第14回 発表II 第15回 定期試験		
進め方	基本的に1回ごとに講義資料を用意し、それに従って講義を行います。履修を予定している人はガイダンスに参加してください。		
テキスト	特にテキストは使用せず、講義資料を用います。	参考文献	授業ごとに提示します。
評価方法	授業(課題含む):40% 定期試験:30% 発表:30%		

情報科学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
通信技術と社会の関わりを知る		島崎 みどり (しまざき みどり)	
ねらい	ブログや電子メールなどはインターネットを基盤とした通信技術によって支えられています。通信技術は、コミュニケーションを促進を目的として発展してきましたが、近年では促進する反面、犯罪の誘発や技術依存など多くの問題を抱えています。授業では、基本的な通信技術とネットワークを通じたコミュニケーション、また将来の人と技術との関わり方について学びます。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 通信の歴史と社会 (1) 有線通信 第3回 通信の歴史と社会 (2) 無線通信 第4回 通信の基本構造 (1) 伝送システムの基本 第5回 通信の基本構造 (2) 伝送システム (LAN/WAN, プロトコル) 第6回 インターネット (1) WWWの仕組み, ドメイン 第7回 インターネット (2) WWWの様々な技術(検索, 電子メール, YouTube) 第8回 インターネット (3) インターネットコミュニケーション (SNS, blog, etc.) 第9回 インターネット上の犯罪/匿名性・著作権 第10回 移動通信 (モバイル) ネットワーク 第11回 特別講義 第12回 最新Web 発表 (1) 第13回 最新Web 発表 (2) 第14回 最新Web 発表 (3) 第15回 定期試験		
進め方	基本的に1回ごとに講義資料を用意し、それに従って講義を行います。履修を予定している人はガイダンスに参加してください。		
テキスト	特にテキストは使用せず、講義資料を用います。	参考文献	授業ごとに提示します。
評価方法	授業(課題含む):40% 定期試験:30% 発表:30%		

基礎情報処理		前期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー		齋藤 真弓 (さいとう まゆみ)	
ねらい	コンピュータは通信技術の進歩によって、私達の生活に大きな影響を与えている。本講座は、パーソナル・コンピュータを使っての実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を習得するとともに、コンピュータの利用に関して、セキュリティや情報モラルなどの全般的な知識の習得を目的とする。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス、実習環境準備。メールの利用、知識テスト 第2回 システム環境、コンピュータの基本操作 第3回 文字入力の基本、文章の編集 第4回 ワープロ (1) 文章編集、印刷環境 第5回 ワープロ (2) 画像、図形描画 第6回 ワープロ (3) ビジネス文書の知識 第7回 インターネット概説、メールの送受信 第8回 ワープロ (4) 罫線処理 第9回 パワーポイント (1) スライド作成の基礎 第10回 パワーポイント (2) アニメーション 第11回 パワーポイント (3) テーマ別課題 第12回 コンピュータ利用に関する知識 (1) 第13回 コンピュータ利用に関する知識 (2) 第14回 エクセル (1) 関数、グラフ 第15回 エクセル (2) エクセルによるワープロ利用、まとめ		
進め方	実習は、解説に従って実際に操作し、課題を仕上げることにより、技術を確実に身につける。課題は添削し返却する。コンピュータの基礎知識に関しては、多くの内容が学べるよう、パワーポイントを利用したプレゼンテーションにより効率よく学習する。		
テキスト	今年度は、随時プリントや、データを配布する。	参考文献	随時紹介する。
評価方法	実習課題:70% プレゼンテーション:20% 平常点:10%		

基礎情報処理		後期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー		齋藤 真弓 (さいとう まゆみ)	
ねらい	コンピュータは通信技術の進歩によって、私達の生活に大きな影響を与えている。本講座は、パーソナル・コンピュータを使っての実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を習得するとともに、コンピュータの利用に関して、セキュリティや情報モラルなどの全般的な知識の習得を目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス、実習環境準備。メールの利用、知識テスト 第2回 システム環境、コンピュータの基本操作 第3回 文字入力の基本、文章の編集 第4回 ワープロ (1) 文章編集、印刷環境 第5回 ワープロ (2) 画像、図形描画 第6回 ワープロ (3) ビジネス文書の知識 第7回 インターネット概説、メールの送受信 第8回 ワープロ (4) 罫線処理 第9回 パワーポイント (1) スライド作成の基礎 第10回 パワーポイント (2) アニメーション 第11回 パワーポイント (3) テーマ別課題 第12回 コンピュータ利用に関する知識 (1) 第13回 コンピュータ利用に関する知識 (2) 第14回 エクセル (1) 関数、グラフ 第15回 エクセル (2) エクセルによるワープロ利用、まとめ		
進め方	実習は、解説に従って実際に操作し、課題を仕上げることにより、技術を確実に身につける。課題は添削し返却する。コンピュータの基礎知識に関しては、多くの内容が学べるよう、パワーポイントを利用したプレゼンテーションにより効率よく学習する。		
テキスト	今年度は、随時プリントや、データを配布する。	参考文献	随時紹介する。
評価方法	実習課題:70% プレゼンテーション:20% 平常点:10%		

基礎情報処理		前期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー			
ねらい	コンピュータは通信技術の進歩によって、私たちの生活に大きな影響を与えている。本講座は、講義とパーソナル・コンピュータを使っての実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を習得するとともに、科学技術の進歩には必ずつきまとう”光と影”についての理解を目的とする。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 講義：コンピュータの基礎知識 第3回 コンピュータの基本操作 第4回 ワープロ実習(1)文字入力の基礎、文章の編集 第5回 インターネット実習(1)ブラウザ、電子メールの操作 第6回 インターネット実習(2)検索エンジン演習 第7回 インターネット実習(3)検索エンジン演習 第8回 ワープロ実習(2)ページ設定・文字修飾 第9回 ワープロ実習(3)文字修飾・罫線処理 第10回 ワープロ実習(4)図形描画 第11回 ワープロ実習(5)画像処理 第12回 課題演習 第13回 パワーポイント実習(1) 第14回 パワーポイント実習(2) 第15回 課題演習		
進め方	コンピュータの基礎知識に関して講義した後実習に入る。実習では解説に従って実際に操作し、まとめの課題演習を通して技術を身につける		
テキスト	本学コンピュータシステムの変更に対応したテキストが4月に刊行される予定なので、改めて授業時に指定します。	参考文献	随時紹介する。
評価方法	実習課題:85% 出席:15%		

応用情報処理		前期 2 単位	1・2・3年
表計算と統計／集計処理		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
ねらい	事務等でよく利用される表計算について、実際にパソコンを利用しながら、その意義を知り、操作方法を習得すると同時に、統計の基礎概念を理解することを目的とします。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 Excelの基本操作、式と関数の基礎 第3回 表示形式と表の清書、グラフ作成、課題演習 第4回 課題演習 第5回 関数(1) IF、COUNTIF、課題演習 第6回 統計の基礎、課題演習 第7回 課題演習 第8回 関数(2) SUMIF、課題演習 第9回 関数(3) VLOOKUP、課題演習 第10回 クロス集計、課題演習 第11回 課題演習 第12回 データの加工(1) 第13回 課題演習 第14回 データの加工(2) 第15回 課題演習		
進め方	講義と演習を交互に進めていきます。		
テキスト	第1回目に指示します。	参考文献	なし
評価方法	課題の進捗:70% 出席:30%		

総合科目Ⅱ「女性と身体」	通年 4 単位	1・2・3年
女性と身体		
<p>【担当教員】</p>		
<p>荒木 純子（あらき じゅんこ）、梅垣 千尋（うめがき ちひろ）、鈴木 直子（すずき なおこ）、香西 豊子（こうざい とよこ）</p>		
<p>【ねらい】</p>		
<p>現代の文化や社会を考えるにあたり、ジェンダーの問題は避けて通れないものとなっています。「ジェンダー」という概念は、男女の社会的文化的性差が、生物学的性と必ずしも一致しない社会的構築物であり、変更可能であることを示すために導入されました。しかし、生物学的性差とはどのようなものなのか、生物学的性差と社会的性差や役割には、どのような関係があるのか、といった問題はまだまだ検討の余地があります。この科目ではみなさんにとって切り離すことのできない女性身体に関わる体験（月経、出産、服装、化粧などを含む）が歴史的・社会的にどのように意味づけられてきたのか、という問題を、近代社会が成立していく過程に沿って考えていきます。具体的には、科学史的な視点からみた身体、近代医学における女性身体の位置づけ、近代の英米欧・日本の身体観などについて学びます。</p>		
<p>第1回 イントロダクション（香西、荒木、梅垣、鈴木） 第2回 生物学のなかの「女」（香西） 第3回 生物学的性差と社会的性差（香西） 第4回 女性の身体と科学1 解剖の歴史から（香西） 第5回 女性の身体と科学2 病気の歴史から（香西） 第6回 女性の身体と科学3 産育の歴史から（香西） 第7回 特別講義：女性と病（酒井シヅ、香西） 第8回 前期中間まとめ 第9回 西洋近代以前の身体とジェンダー1 異性装（荒木） 第10回 特別講義：聖書に描かれた女性の身体（谷口裕子、荒木） 第11回 西洋近代以前の身体とジェンダー2 聖女と魔女（荒木） 第12回 西洋近代以前の身体とジェンダー3 魔術と医術（荒木） 第13回 西洋近代以前の妊娠・出産観1 婦人科学（荒木） 第14回 西洋近代以前の妊娠・出産観2 産科学（荒木） 第15回 前期まとめ 第16回 後期ガイダンス 第17回 近代における女性と身体（梅垣） 第18回 近代医学における性差理解：女性身体の科学的把握（梅垣） 第19回 近代フェミニズムの誕生：差異と平等のあいだで（梅垣） 第20回 生殖管理と女性の性的自己決定（梅垣） 第21回 近代社会の女性：伝統社会の女性：身体加工から考える（梅垣） 第22回 特別講義：フランス革命と女性身体（西願広望、梅垣） 第23回 後期中間まとめ 第24回 欧米から見た日本と女性身体（鈴木） 第25回 明治期日本における女性身体の近代化と表象（鈴木） 第26回 生殖政策と国家管理（鈴木） 第27回 女性の身体体験と小説・表現・表象（鈴木） 第28回 生殖技術と性的自己決定（鈴木） 第29回 特別講義：女性身体と想像力（菅沼真砂子、鈴木） 第30回 まとめ会（香西、荒木、梅垣、鈴木）</p>		
<p>【進め方】 担当の四教員によるチームティーチングに、学内外のゲストスピーカーを交えつつ進めます。講義を中心に、さまざまな資料・史料を参加者各自が読み、考え、討論したり、感想を書いてもらうなど、参加型の授業となります。</p>		
<p>【テキスト】 授業中に適宜配布。</p>		
<p>【参考文献】 トマス・ラカー『セックスの発明』、長谷川まゆ帆『お産椅子への旅』、荻野美穂『ジェンダー化される身体』。</p>		
<p>【評価方法】 出席カードと授業への積極的参加20％、前期レポート40％、後期レポート40％</p>		

総合科目Ⅲ「ルネサンス」	通年 4 単位	1・2・3年
ルネサンスの文化・社会・自然		
<p>【担当教員】</p>		
<p>大野 芳材（おおの よしき）、橋本 典子（はしもと のりこ）、樋笠 勝士（ひかさ かつし）、渡部 徳子（わたなべ とくこ）</p>		
<p>【ねらい】ルネサンスは、14、15世紀イタリアに開花した豊かな文化であり、そして誰もが芸術都市フィレンツェと共に、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ラファエロ、ミケランジェロの名前を想う。ルネサンスの拡がりは全ヨーロッパに波及しすべての学問に大きな影響を与えた。授業では担当者4名が、それぞれ芸術、科学、思想、文化等の観点から多面的な文化的思想運動であるルネサンスを取り上げる。芸術とそれを熟成させた社会、或いは社会構造について多角的に学ぶことを身に付け、自由な知識と感性が開花した時代を追体験してもらうのが主なねらいである。</p>		
<p>ルネサンスの時代には、科学的見方がアラビアから西洋に導入された。特に遠近法、占星術、錬金術、印刷術等、科学技術での新たな発見があり、現実を如何に見るか、その方法と考え方が論じられた。レオナルドの『科学論』はその特徴を明確に示している一例である。</p>		
<p>4人それぞれの教師にレポートを提出することが義務である。</p>		
<p>第1回 序論 （大野、渡部、樋笠、橋本）</p>		
<p>第2回 中世のキリスト教美術Ⅰ ジョットを中心に（大野）</p>		
<p>第3回 中世のキリスト教美術Ⅱ シモネ・マルティーニとシエナの美術</p>		
<p>第4回 マサッチオの挑戦</p>		
<p>第5回 フラ・アンジェリコとボッティチェリ</p>		
<p>第6回 ラファエロとレオナルド</p>		
<p>第7回 ミケランジェロとマニエリスム</p>		
<p>第8回 フランス美術のルネサンス</p>		
<p>第9回 ルネサンスの自然科学 （渡部）</p>		
<p>第10回 総論－科学技術の新たな展開</p>		
<p>第11回 印刷技術と学問・技術の広がり</p>		
<p>第12回 地球の理解－天文学・航海術・羅針盤</p>		
<p>第13回 自然科学と建築</p>		
<p>第14回 科学実験とその成果（医・薬・人体）</p>		
<p>第15回 科学的な認識と芸術</p>		
<p>第16回 「ルネサンス」とは何か－言葉の意味 （樋笠）</p>		
<p>第17回 歴史的な概念としてのルネサンス</p>		
<p>第18回 ルネサンスにおける学問・芸術・文化の多様性（1）</p>		
<p>第19回 ルネサンスにおける学問・芸術・文化の多様性（2）</p>		
<p>第20回 ルネサンスにおける学問・芸術・文化の多様性（3）</p>		
<p>第21回 ルネサンスにおける学問・芸術・文化の多様性（4）</p>		
<p>第22回 時代を超えた一般概念としてのルネサンス－その普遍性</p>		
<p>第23回 Humanism（人文主義）とは （橋本）</p>		
<p>第24回 人類の教師としてのダンテ、『神曲』を中心に</p>		
<p>第25回 新プラトン主義と芸術表現</p>		
<p>第26回 科学的観察とその成果</p>		
<p>第27回 ピコ・デラ・ミランドーラ、人間の尊厳</p>		
<p>第28回 人文主義者エラスムスと宗教改革</p>		
<p>第29回 フランス・ルネサンス</p>		
<p>第30回 まとめ （大野、渡部、樋笠、橋本）</p>		
<p>【進め方】4人の教員がそれぞれのテーマについて講義を行う。具体的作品やその他必要に応じてパワーポイントやビデオを使って説明をする。</p>		
<p>【テキスト】教科書は特に指定しない。適宜資料を配付する。</p>		
<p>【評価方法】4人へのレポート結果70%、出席及び受講態度30%</p>		

総合科目Ⅳ「平和」	通年 4 単位	1・2・3年
平和について学び考える		
<p>【担当教員】 河見 誠（かわみ まこと）、鈴木 直子（すずき なおこ）、関谷 雄一（せきや ゆういち）、豊川 慎（とよかわ しん） 〔ねらい〕 20世紀は戦争の世紀と言われた。21世紀は「平和」の世紀となるのであろうか。イエスカノーか、その答えは、21世紀に生きる私たち一人一人にかかっている。この授業では、四つの側面から平和について深く学ぶ。そして各人が平和をどう受けとめ、今、何に取り組んでゆけばよいのかを自分の問題として考えていく。</p> <p>〔授業計画〕</p> <p>前期 <オリエンテーション> 第1回 オリエンテーション</p> <p><第Ⅰ部：平和とは何か－平和の構造と枠組み>（河見担当） 第2回 平和を妨げるものとは？ 第3回 暴力を暴力で制す？1 第4回 暴力を暴力で制す？2 第5回 私たちはどんな社会に生きているか？1 第6回 私たちはどんな社会に生きているか？2 第7回 自分を取り巻いている文化について考える 第8回 第Ⅰ部のまとめ</p> <p><第Ⅱ部：平和への取り組みの実際>（関谷担当） 第9回 平和を創り出す現場を見つめる（導入） 第10回 政策から平和を創り出す現場 第11回 経済活動を通して平和を創り出す現場 第12回 教育活動を通して平和を創り出す現場 第13回 紛争解決・難民保護を通して平和を創り出す現場 第14回 私達にできることは何か？ 第15回 第Ⅱ部のまとめ</p> <p>後期 <第Ⅲ部：平和と文学－個別具体的な人間の営みから見た平和>（鈴木担当） 第16回 文化的暴力とは何か1：戦争を記憶すること 第17回 文化的暴力とは何か2：沖縄戦の記憶のされ方 第18回 記憶の物語：目取真俊「魂込め」を読む1 第19回 記憶の物語：目取真俊「魂込め」を読む2 第20回 女性と戦争・平和1：戦場での女性への暴力 第21回 女性と戦争・平和2：戦争協力と女性、平和構築と女性 第22回 第Ⅲ部のまとめ</p> <p><第Ⅳ部：キリスト教と平和－キリスト教思想史から考える平和の問題>（豊川担当） 第23回 21世紀の平和の神学の課題 第24回 聖書における平和の概念 第25回 古代ローマ帝国から中世時代における戦争と平和の問題 第26回 宗教改革の時代から20世紀における戦争と平和の問題 第27回 キリスト教思想における赦しと和解の概念 第28回 キリスト教思想から考える平和教育 第29回 第Ⅳ部のまとめ</p> <p><ふりかえり> 第30回 ふりかえりの会</p> <p>〔進め方〕 4人の教員によるオムニバス形式である。ただし、初回と最終回は、オリエンテーションとふりかえり。受講者には、平和を学ぶための国内外のスタディ・ツアーや勉強会（短大主催のものとしては、那須アジア学院ワークキャンプ・沖縄を学ぶツアー等もある。また海外スタディ・ツアーを支援する短大特別奨学金制度もある。）に積極的に参加することを勧める。なお、内容と進め方の詳細は、初回の授業時にプリントを配布して説明する。</p> <p>〔テキスト〕 テキスト・参考文献は、オリエンテーション時及び各担当者の授業時に指示する。</p> <p>〔評価方法〕 各担当者ごとのレポート（計4本）の他、授業への参加度合い（出席、授業態度、授業中のミニレポート、授業外での自主的学びの報告も含む）も加味して評価する。レポート70% 授業への参加度合い30%。</p>		

創作指導「短歌」Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
短歌に親しむ		高野 公彦（たかの きみひこ）	
ねらい	これは短歌の好きな人、短歌を作ってみたい人のための授業です。毎週、短歌を作ってもらいます。じっさいに短歌を作ることによって短歌を作る楽しさ、及び短歌の奥の深さを知ってもらいたいと思います。		
授業計画	【前期】 第1回 短歌の話 第2回 作品2首提出、短歌の話 第3回 作品2首提出、作品批評 第4回 " " 第5回 " " 第6回 " " 第7回 " " 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " " 第11回 " " 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " " 第15回 作品批評、自選歌8首提出		
進め方	毎週、短歌を提出してもらいます。それをプリントして、みんなで批評し合います。作品の中から良いと思ったものを選び、感想を述べて下さい。必要に応じて教師も意見を言います。また、ときどき現代のすぐれた短歌を読んで鑑賞します。		
テキスト	なし	参考文献	高野公彦編『現代の短歌』（講談社学術文庫）
評価方法	作品（自選歌）：60% 出席：30% 授業への参加度：10%		

創作指導「短歌」Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
短歌に親しむ		高野 公彦（たかの きみひこ）	
ねらい	これは短歌の好きな人、短歌を作ってみたい人のための授業です。毎週、短歌を作ってもらいます。じっさいに短歌を作ることによって短歌を作る楽しさ、及び短歌の奥の深さを知ってもらいたいと思います。		
授業計画	【後期】 第1回 短歌の話 第2回 作品2首提出、短歌の話 第3回 作品2首提出、作品批評 第4回 " " 第5回 " " 第6回 " " 第7回 " " 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " " 第11回 " " 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " " 第15回 作品批評、自選歌8首提出		
進め方	毎週、短歌を提出してもらいます。それをプリントして、みんなで批評し合います。作品の中から良いと思ったものを選び、感想を述べて下さい。必要に応じて教師も意見を言います。また、ときどき現代のすぐれた短歌を読んで鑑賞します。		
テキスト	なし	参考文献	高野公彦編『現代の短歌』（講談社学術文庫）
評価方法	作品（自選歌）：60% 出席：30% 授業への参加度：10%		

調理文化		前期 2 単位	2・3年
人は何を食べてきたのか		松本 美鈴（まつもと みすず）	
ねらい	異なった自然環境や社会環境のなかで暮らしてきた人は、それぞれの環境下で何を食糧として選択してきたのか、また、獲得した食糧に手を加えてどのような食べ物を作りあげてきたのかを考える。		
授業計画	【前期】 第1回 調理文化の概要 第2回 米料理の地域性 第3回 小麦粉料理（パン様食品）の地域性 第4回 小麦粉料理（麺様食品）の地域性 第5回 乳加工品の地域性 第6回 獣鳥肉の地域性 第7回 魚料理と肉料理の比較 第8回 豆加工品の地域性 第9回 発酵食品の地域性 第10回 いも料理の地域性 第11回 調味料の地域性 第12回 香辛料の地域性 第13回 食具の地域性 第14回 調理とおいしさ 第15回 まとめ・筆記試験		
進め方	講義中心であるが、ビデオや写真などで理解を助ける。		
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	石毛直道編『世界の食事文化』ドメス出版、吉川誠次編『食文化論』建帛社、大塚滋・川端晶子編『調理文化学』建帛社
評価方法	試験：60% 出席：20% 提出物：20%		

生活材料学		後期 2 単位	1・2・3年
繊維材料とプラスチック		山田 裕子（やまだ ひろこ）	
ねらい	衣服や生活用具など私たちが日常生活の中で使用している“物”は、様々な素材で構成されているが、プラスチックや繊維を用いている物が多い。本講では、それら製品を使用する立場で、素材の特性や成り立ちを学ぶ。特性を知ってこそ、上手に生活の中で使いこなせるであろう。		
授業計画	【後期】 第1回 プラスチックとは何か。意味・特徴・歴史 第2回 プラスチックの種類。 第3回 熱硬化性プラスチックと熱可塑性プラスチック 第4回 汎用プラスチックとエンジニアリングプラスチック 第5回 身近なプラスチック 第6回 身近なプラスチック 第7回 プラスチック製品の作られ方 第8回 包装製品としてのプラスチック 第9回 使用済みプラスチックの廃棄とリサイクル 第10回 セラミックスとは 第11回 精密セラミックス製造は日本のお家芸 第12回 繊維の話・・・繊維とプラスチック 第13回 天然繊維と化学繊維、合成繊維 第14回 多様な特性を持つ最近の繊維 第15回 試験		
進め方	講義形式で進める。		
テキスト	テキストは指定しない。必要に応じプリントを配布する。	参考文献	林 雅子監修・酒井豊子ほか著『被服材料学』（実教出版社）、阿部幸子ほか著『衣生活論（同文書院）』、葛良忠彦・平和男著『新しい包装材料』（共立出版）
評価方法	定期試験：80% 出席点：20%		

基礎食品学		前期 2 単位	1・2・3年
食品材料と食品栄養学		谷本 信也 (たにもと しんや)	
ねらい	食品を、化学的に、また、栄養、衛生、物理面でみて、料理素材として選べるよう、加工食品も選べるようになることを目的とする。植物性と動物性食材を個別に扱う。その組成を説明することで特性を理解し同時に食材の栄養学的知識を身につけ、流通加工の間での組成組織の物理化学変化を学ぶ中で、商品の見分、保存、栄養学的に見た加工調理法も		
授業計画	【前期】 第1回 食品の構成成分1 炭素水素酸素窒素等の原子と分子 水 第2回 食品の構成成分2 炭水化物 脂質 第3回 食品の構成成分3 脂質 第4回 食品の構成成分4 タンパク質 第5回 食品の構成成分5 繊維など 第6回 植物性食材 野菜1 第7回 植物性食材 野菜2 第8回 植物性食材 野菜3 第9回 植物性食材 果物 第10回 植物性食材 芋、豆、海藻、きのこなど 第11回 動物性食材 畜肉 第12回 動物性食材 乳 卵 第13回 動物性食材 海産物 第14回 食品流通と表示 法律と政策 第15回 試験		
進め方	講義中心の授業です。教科書を必要としますが、参考にするだけですし、授業と同じ内容の本で一冊にまとめたものはありません。関連資料はそのつど示しますが、積極的に授業に出席していないとおかれることになります。		
テキスト	アクセス生体機能成分 (技報堂出版)	参考文献	図書館の食品学関係や調理関係の書棚と加工食品、農産物、畜産物、水産物の棚に詳しい本がある。参考図書リストも参考に。
評価方法	出席:30% 期末試験:70%		

応用食品学		後期 2 単位	1・2・3年
食品の嗜好成分・物性		黒田 圭一 (くろだ けいいち)	
ねらい	食品に含まれる栄養素以外の成分である味、色、においなどの嗜好成分と食感について学び、食品の特性を理解することを目的とする。また安全で健康を維持できる食生活を営むための食の在り方を考えることも目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 食品の構成成分と機能 第2回 食品の味、呈味成分① (甘味と甘味料について) 第3回 食品の味、呈味成分② (酸味、塩味、苦味について) 第4回 食品の味、呈味成分③ (うま味、辛味、渋味について) 第5回 食品の色、色素成分 第6回 食品の匂い、匂い成分 第7回 食品の物性① (デンプンとデンプン食品、パン) 第8回 食品の物性② (チーズ、ヨーグルトの乳製品) 第9回 食品の物性③ (豆腐、かまぼこ、その他) 第10回 食品の物性④ (脂質の乳化) 第11回 食品の毒性物質 第12回 食品の保存 第13回 加工食品 第14回 特別用途食品 第15回 試験		
進め方	講義が中心となる授業です。基礎となる分野も復習しながら進めていきます。		
テキスト	授業時に提示します。	参考文献	図書館の食品学関係の書棚と加工食品、農産物、畜産物、水産物の棚に本がある。授業時にも提示する。
評価方法	試験:80% 出席及び積極的な態度:20%		

実践栄養学		後期 2 単位	1・2・3年
栄養学を实践するために		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
ねらい	本講義の目的は若い女性が陥りやすい栄養に関係する病気を取り上げ、基礎栄養学（食事摂取基準）や栄養生理学の栄養知識を实践するための方法を理解することである。		
授業計画	【後期】 第1回 身体組成あれこれ 第2回 食事摂取基準 第3回 ダイエットの失敗 第4回 皮膚・毛髪と栄養 第5回 神経性食欲不振 第6回 便秘・下痢 第7回 脂肪肝・高脂血症 第8回 貧血・生理不順 第9回 低血圧・冷え 第10回 浮腫・むくみ 第11回 ダイエットと和食 第12回 ダイエット食とは 第13回 骨粗鬆症予防 第14回 食物アレルギー 第15回 食生活アンケート及び討論		
進め方	講義が中心となるが、ビデオで理解を助ける。		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	図書館カウンターにある2009年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	レポート:85% 出席点:15%		

演劇論		後期 2 単位	1・2・3年
演劇の享受と解釈		曾根 幸子 (そね さちこ)	
ねらい	演劇とはどのような世界を構築し、わたしたちに何をもたらししてくれるのか。そして現代に生きるわたしたちにとって過去の偉大な作品がどのようによみがえり、それらがいかに意味あるものとして味わえるかを考える。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス～演劇とはなにか 第2回 ギリシャ悲劇～オイディプス王 第3回 ギリシャ悲劇～女王メディア、トロイアの女 第4回 シェークスピア～ハムレット（1） 第5回 シェークスピア～ハムレット（2） 第6回 シェークスピア～悲劇と喜劇 第7回 フランス古典劇～アンドロマック 第8回 近代演劇～人形の家、桜の園 第9回 プレヒト～三文オペラ 第10回 第二次大戦後の演劇～欲望という名の電車 第11回 不条理演劇～ゴドーを待ちながら 第12回 日本の伝統演劇～能、狂言 第13回 日本の伝統演劇～文楽、歌舞伎 第14回 日本のアンガラ演劇 第15回 まとめと発表		
進め方	講義が中心となるが、受講者の意見や感想を求めることもある。最初の授業で履修者の意見を聞き、授業内容の修正をする。毎回、参考となる映像資料を提示する。		
テキスト	教科書は用いず、プリント資料を配布する。	参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	演劇鑑賞レポート:30% 戯曲読後レポート:40% 出席状況:30%		

音楽論		後期 2 単位	1・2・3年
音楽美学入門		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	音楽を思想の結晶の現われとみることによって、芸術としての音楽に内在する美を探る音楽美学を論ずる。具体的にはバッハの時代の音楽論から現代の音楽美学の展開を理解することを旨とする。		
授業計画	【後期】 第1回 序論、音楽美学と音楽史 第2回 ミュースの女神と芸術 第3回 笛と琴、ゲオルギア・アデスの音楽論 第4回 ビタゴラスの音楽論、数と音楽ーハルモニア 第5回 記譜法の歴史 第6回 楽譜と音響、音楽の在り方の問題 第7回 教会音楽と世俗音楽、グレゴリア聖歌 第8回 言葉と音楽、模倣から表出へ 第9回 無限の憧憬、器楽の優位ーソナタ 第10回 自律的音楽美学、ハンスリックの『音楽美学』 第11回 音楽の存在ー音と価値 第12回 音楽的時間、ジゼル・ブルレの音楽美学 第13回 演奏と音楽解釈、演奏論 第14回 ジャンケレヴィッチのドビュシー解釈 第15回 音楽美学の将来		
進め方	今年、西洋に於ける音楽の現象と音楽理論の歴史を論じた後に、音楽美学入門として音楽の美について、自律的音楽美学を論じたハンスリックとその後の展開を論じる。授業は講義形式であるが、必要に応じて音楽作品を聴く。		
テキスト	今道友信編『講座美学』4 芸術の諸相(東京大学出版会) 絶版の場合はプリントを使う。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	試験:55% 出席及び受講態度:35% レポート:10%		

映像論		後期 2 単位	1・2・3年
映像の歴史と映像表現の批評		濱崎 好治 (はまさき こうじ)	
ねらい	幅広い映像を見ることによって、映像の記録性、表現力について批評する方法を身につける。		
授業計画	【後期】 第1回 写真と動く映像の誕生 第2回 20世紀初頭のハリウッド映画 第3回 映画の記録性と表現力 第4回 記録映画と物語映画 第5回 映画の文法(カメラワークとモンタージュ) 第6回 映画の批評(リアリズム) 第7回 映画の批評(作家主義) 第8回 テレビ的表現とは何か 第9回 テレビの批評 第10回 日本のコマーシャル(‘60年代’ 70年代) 第11回 世界のコマーシャル(‘80年代’ 90年代) 第12回 マンガ・アニメの表現力 第13回 アートとしての映像表現 第14回 コンピュータグラフィックの表現 第15回 デジタル映像の可能性		
進め方	本講義は毎回映像を見ながら解説する。		
テキスト	プリントを配布。	参考文献	授業中に紹介。
評価方法	出席:20% レポート:80%		